



恋の受

恋の受

こいのうた、あいのうた

FINAL FANTASY XIV
unofficial FAN BOOK

光の戦士×水晶公



dicca'suemitsu
Presents.

R-18

恋の詩、愛の唄。

FINAL FANTASY XIV
unofficial FAN BOOK

光の戦士 × 水晶公



dicca*suemitsu
Presents.

本作品の光の戦士について

面白いと思ったことをやってるうちに、世界を救ったり
死にかけたりするサンシーカーの男。
剣を振るう傍ら、詩歌を唄い踊り、俗世の文化を愛し嗜む一方で
個人を深く愛することは今まで無かった。

恋の詩、愛の唄。

FINAL FANTASY XIV
UNOFFICIAL FAN BOOK
光の戦士×水晶公



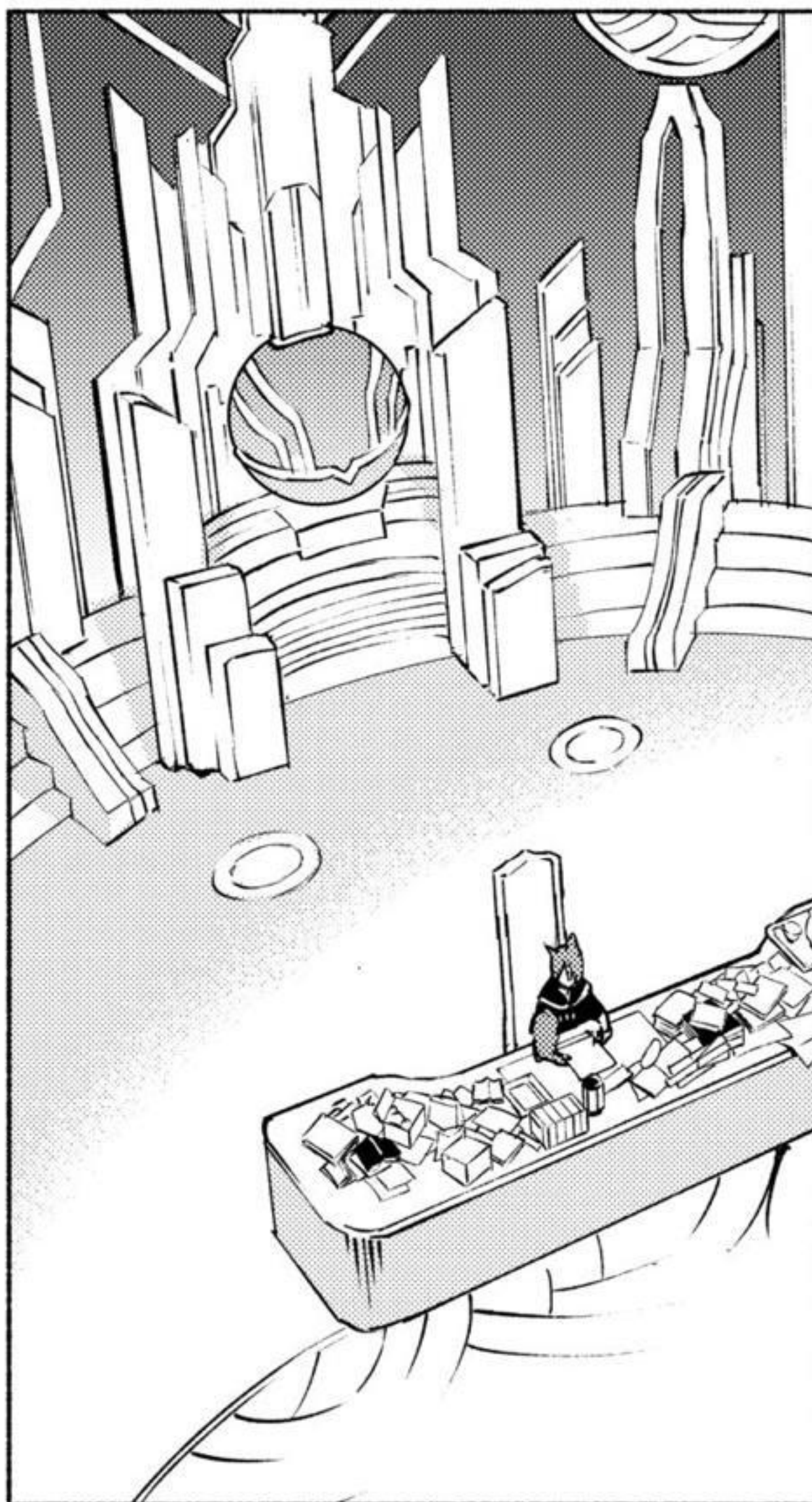
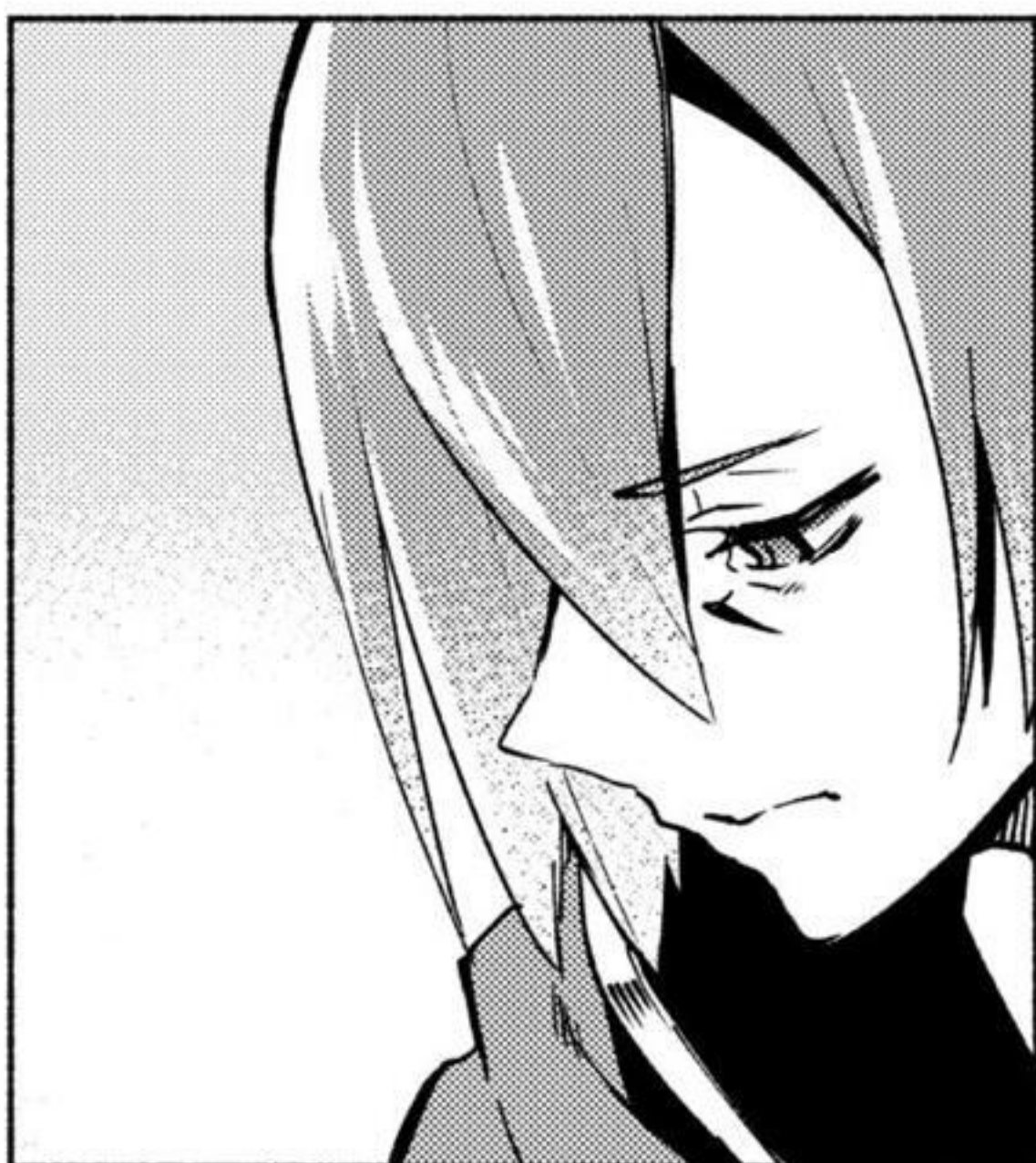
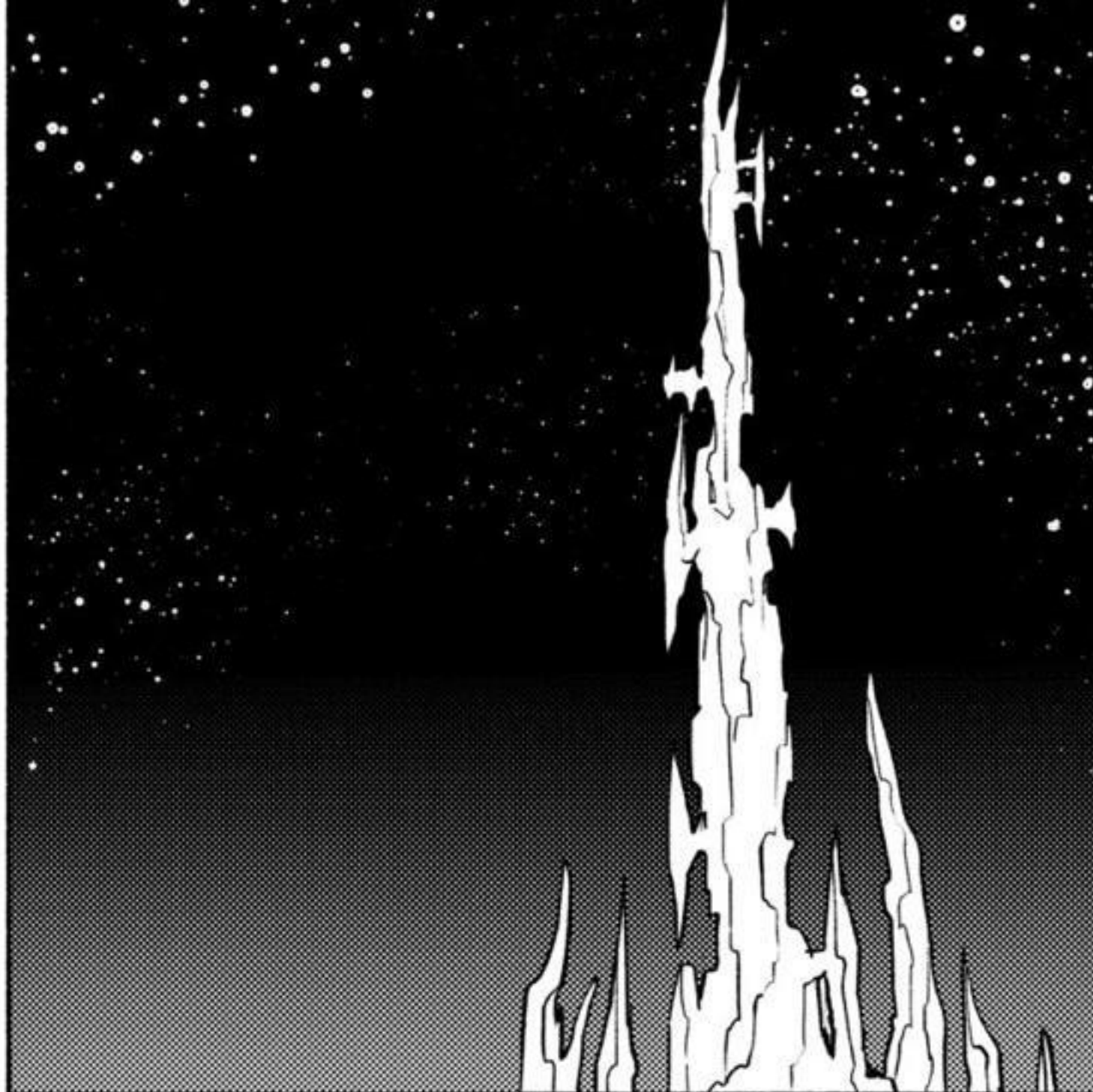
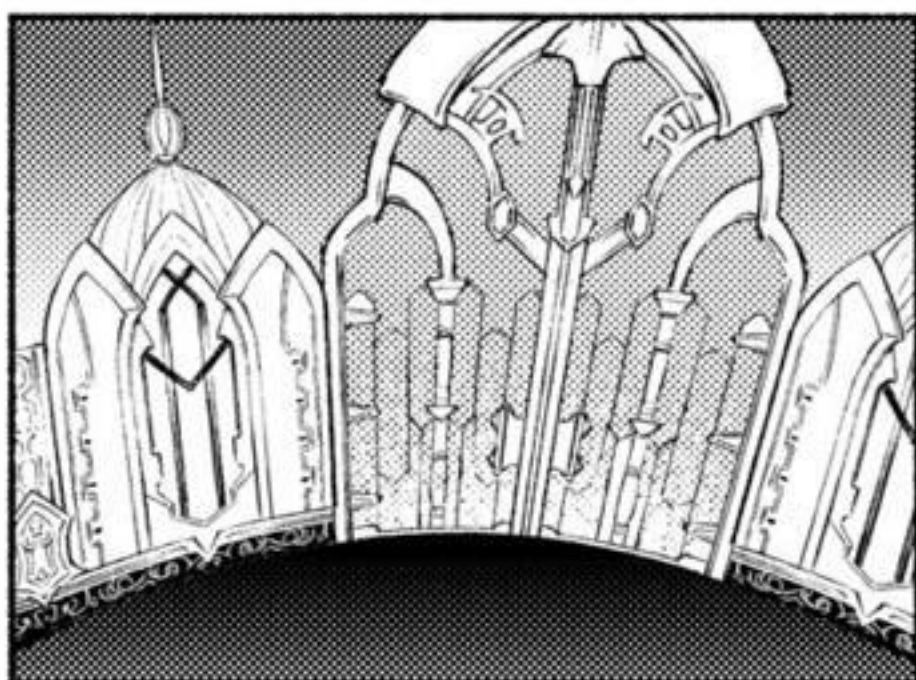
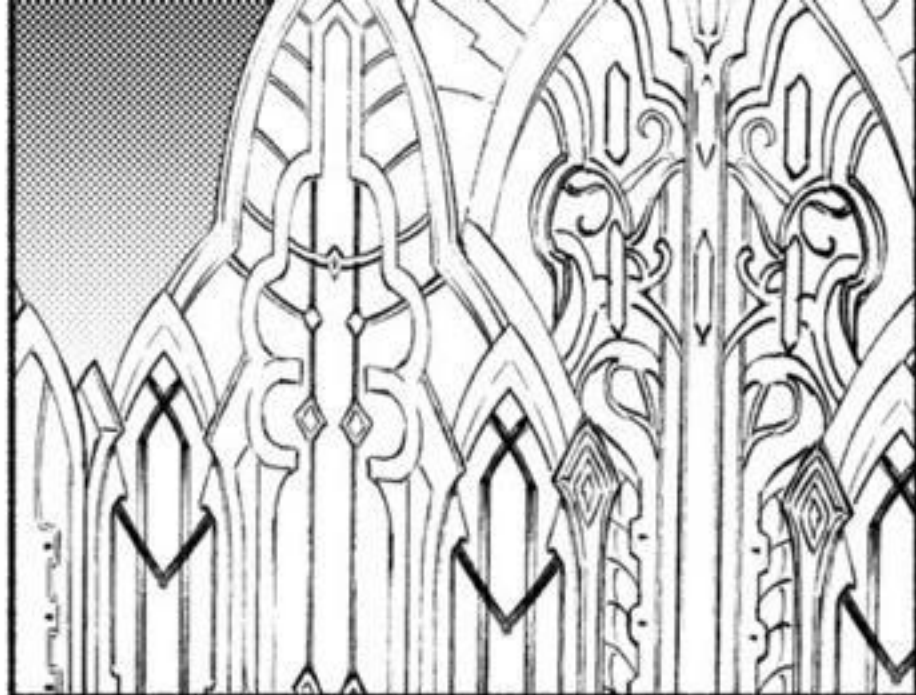


水晶公の
過労の原因は
俺かもしれない

恋の絆、愛の叫。

FINAL FANTASY XIV
un-official FAN BOOK

光の戦士×水晶公





あなたで
こなたが
ここに？

ギャッ



今何時？



あ……
ええと

23時だな

ええー!!
もう23時!?

っていう
リアクシ
ョンか
ですら
ないの
か
重症
じゃ
ん

ええー!!
なにか

あの…
なにか……?

あんまりにも
働きすぎだから
心配でさ

わかってるの?

心配には及ばないさ
知っての通り私は
不死の身体

これから
身を粉にして
クリスタリウムを
守り続け……

いやいやいや
ソレが良くないや
言いに来たんだいよ

良くない……？



あーやだやだ
これだから
ワーカーホリックは



そんな
いきなりやってきては
重症だの良くないだの

私は
私の仕事を
している
だけなのだから



じゃあ仕事なら
やってくれる
わけなんだな？





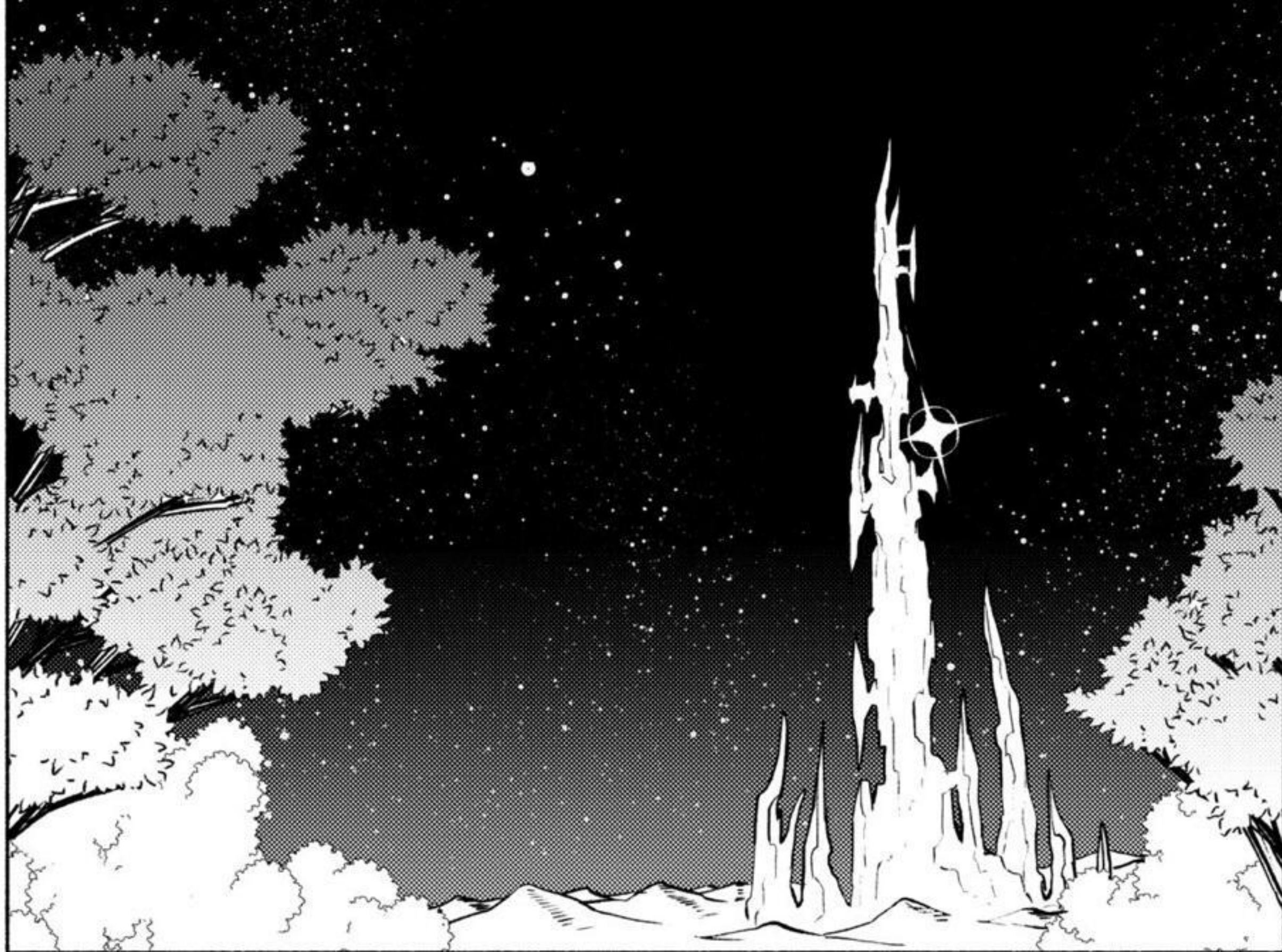
クリスタリウムを
良くすることに
つながるならば
それは私の仕事だ

じゃあ
俺からの仕事も
請けて
もらえるんだ？

あなたの
依頼？



はちくり



まだ今日の仕事
終わってない
っていうのに!!

お、いいね
その調子

な、なにが
ない調子
なんだ!!

その
むくれっ面

俺の中の
グ・ラハって感じ

はあ!?

さっき
やってた
書類さ

!



別に明日までに
じゃなくて
大丈夫だってよ

少しは
安心したか

納期っていうのは
延びるものも
あるもんさ

俺はおてつだいの
エキスパートだから
そういう鼻は
利くんだ

え……
まあ……

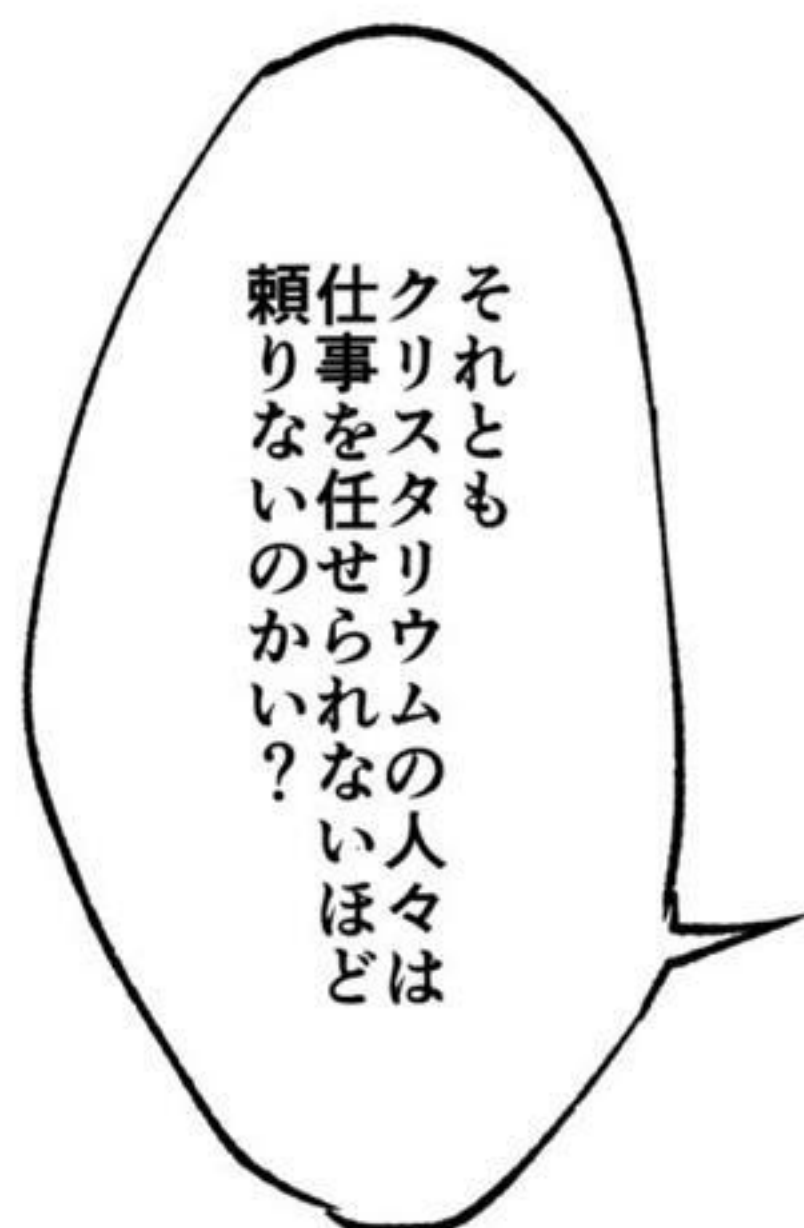
最初から
順を追って
説明してほしい

うん、そうだな
俺も
振り回しっぱなしだと
水晶公に
嫌われてしまいそうだ

え……いや、
嫌ったりは
しないが……

本当？
本当にい……？

しないから
説明を！



……いや、
そういうわけではないんだ

うん

「何一つ
しくじることの
無いように
計画を遂行するため」

だから今までは
任せられなかった

ってとこかな

まいったな
英雄殿には
すべて
お見通しか

いやー
全部終わった後だし
俺、当事者じゃない
わかるよそりゃ



良くも悪くも
視野狭いところあるね
グ・ラ・ハは

あはは

まっ、だからこそ
百年間、横道に
逸れなかったん
だろうけどさ



くぬぬ...



おうおう、睨め睨め
今まで目元見えて
なかったぶん
どんどん睨んでよ

そんな事言われたら
あなたの方を
見られないか！
じゃないか！

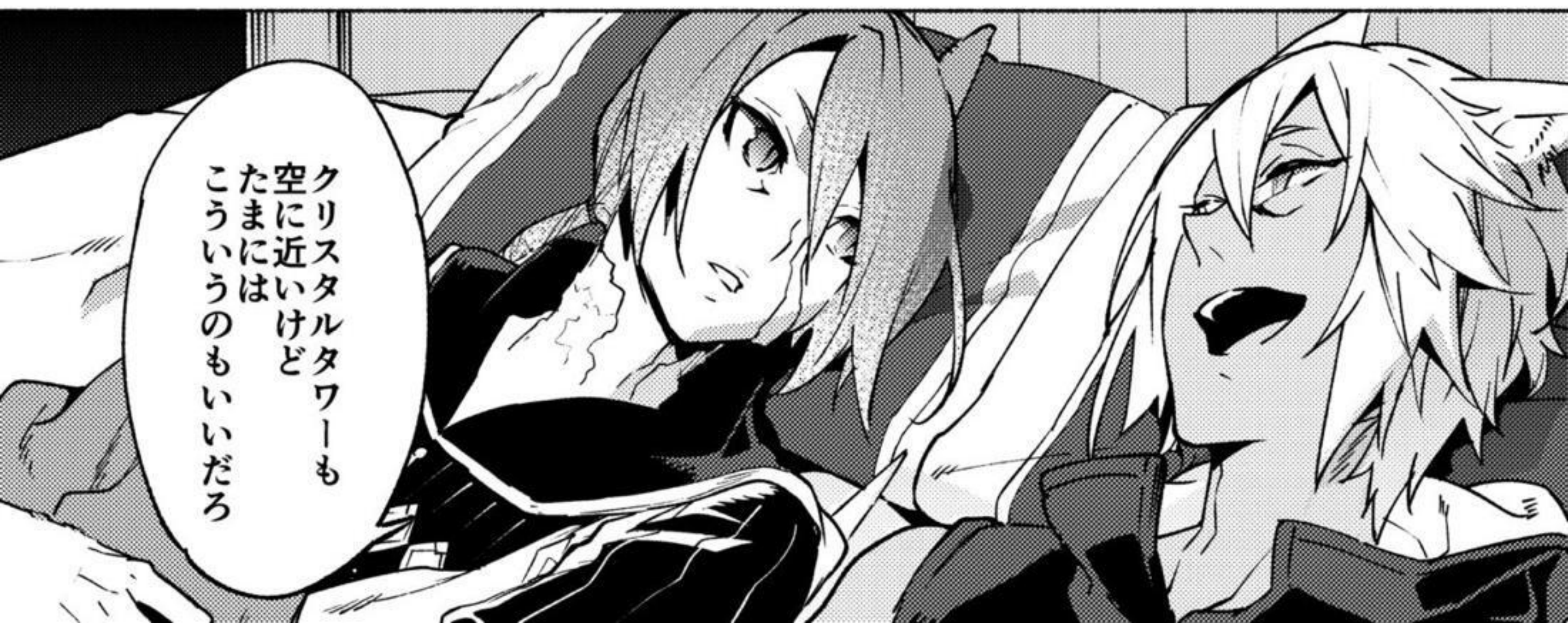




なあ水晶公

せっかく俺がコレで
連れ出したんだから
横になって
空を眺めてみないか？





原初世界と第一世界って
どっか似てるけど
なんか違うんだよね

でも、
星空だけは
同じかも



夕暮れになって
家に帰ったりして
夜は親しい人と
過ごして

そして眠る

なーんて
贅沢なんだ
夜の概念

せっかく取り戻した
夜なんだから
仕事だけで過ごすのって
もったいないじゃん





ていうか
俺たちでせっかく
取り戻した夜
なんだからさ
ちゃんと見て？

わ...わかった



水晶公の身体が不死なら
忙しい時ってやつも
永遠になりかねない

忙しい時が
あってもいい
俺だって忙しく
駆け回る時はあるよ

でも



それが当たり前に
なっちゃったら
改めて
助けを求めるのが
むずかしくなるだろ

人ってさ、
他の人にやって
もらえるなら
その環境に
慣れちゃうん
だよ

子供ってさ
環境に応じて
育つと思うんだ

水晶公にとって
クリスタリウムの
人たちって
我が子みたいなの
もんだと
思うんだけど

今こそ、
少しづつ任せる
環境になつたんじゃ
ないかなってことを
言いたかったんだ

そうか……

まったく、あなたは
回りくどいのか
ストリートなのか
わからない人だな

うーん、
伝えたいことが
いっぱいあるのに
気持ちと行動が
先走るんだよね

ごめんね？

いえいえ

それこそが
英雄たる所以だな

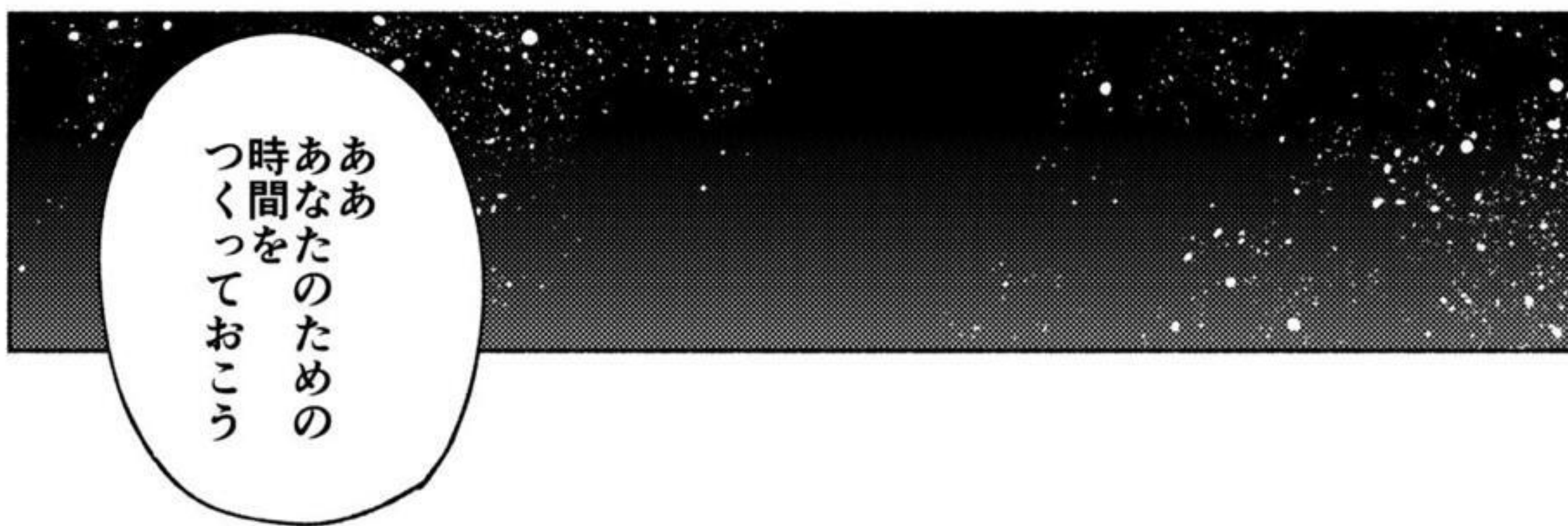
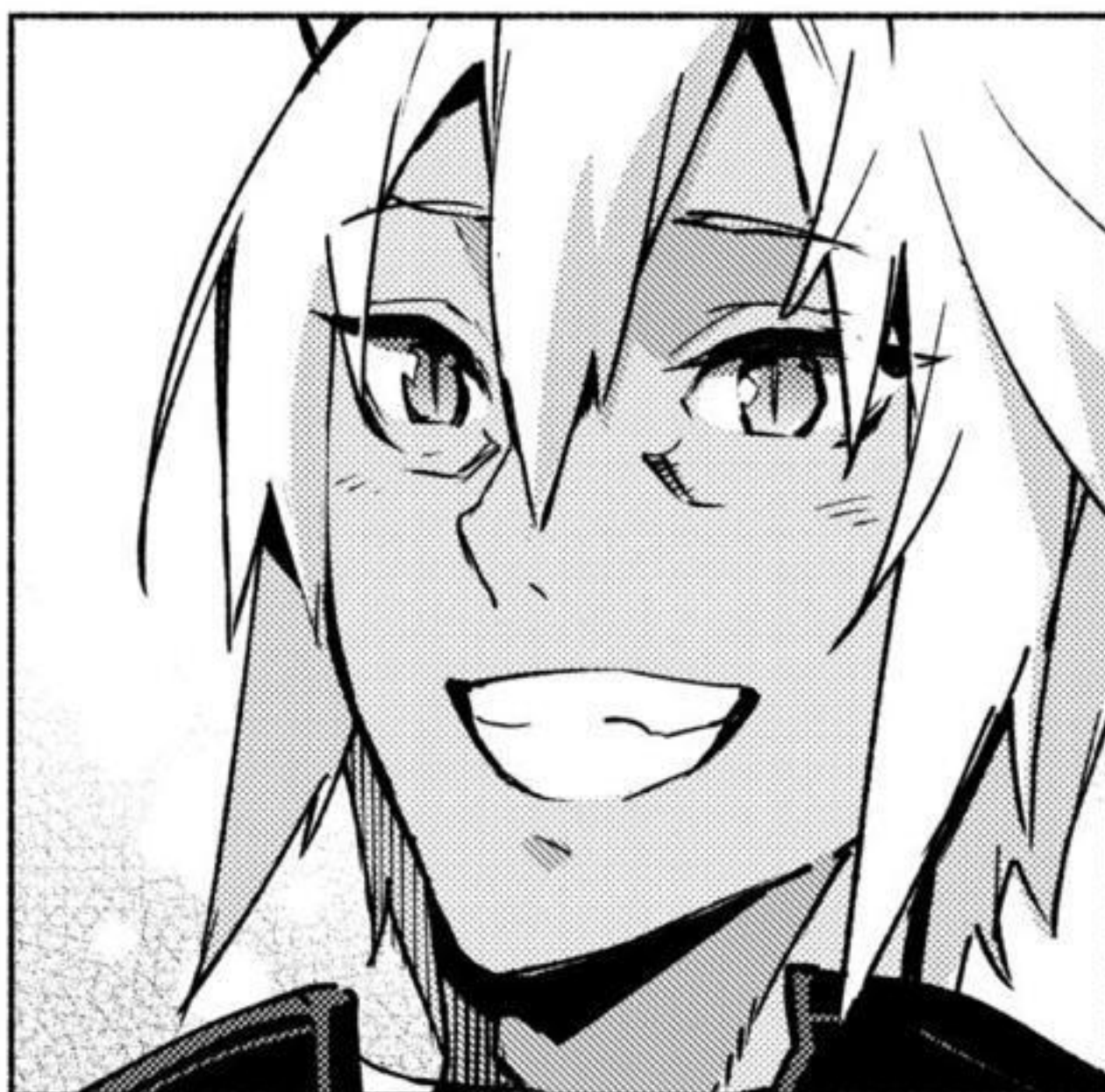


このお仕事、
明日も
持ってきていい？



許してもらうついでに
もひとつお願い、
いい？

なんなりと



ああ
あなたのための
時間を
つくっておこう

翌日

ええ!!
事務関係についての
人選のたたき台の
もう作ったのか!!

やっぱ100年間は
政治家やってるだけ
あるなあ!

クリスタリウムの
人たちのことは
移民以外なら
子供の頃から
把握しているからね

誰がどんなことを
得意かは
ある程度知っている
つもりだよ

ええ、
やれば出来るじゃん、
やらないで今まで
やらなかったの、

いや、だから今までは
その時期では
無かったと昨日……

でも俺がツツコミ
入れなかつたら
もう100年は余裕で
過労生活続けてた
よね?

あ
もー





おう、
存外に弱いぞ
年寄り



今まであんまり
飲んで遊んだりして
こなかったんだろうな
歴史書に囲まれた
賢人だったというし

飲んで潰れたところを
暗殺されたりしたらとか
危機管理を思うと
まあ：飲めねえわな





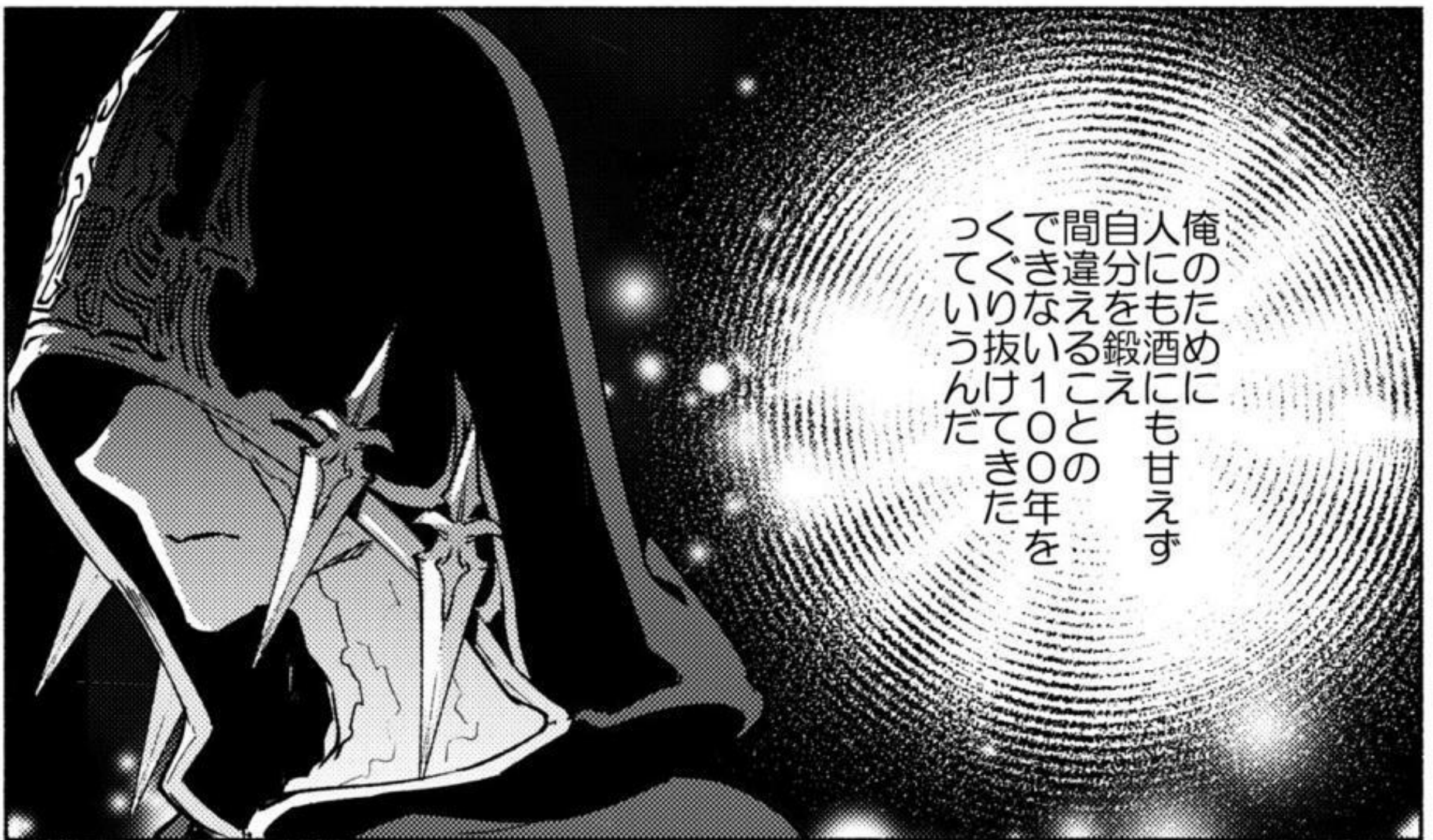
三日酔いになるほど
飲んでもいないし
まあ大丈夫だろう



水晶公としての
100年以上を
無碍にする訳では
ないのだけど



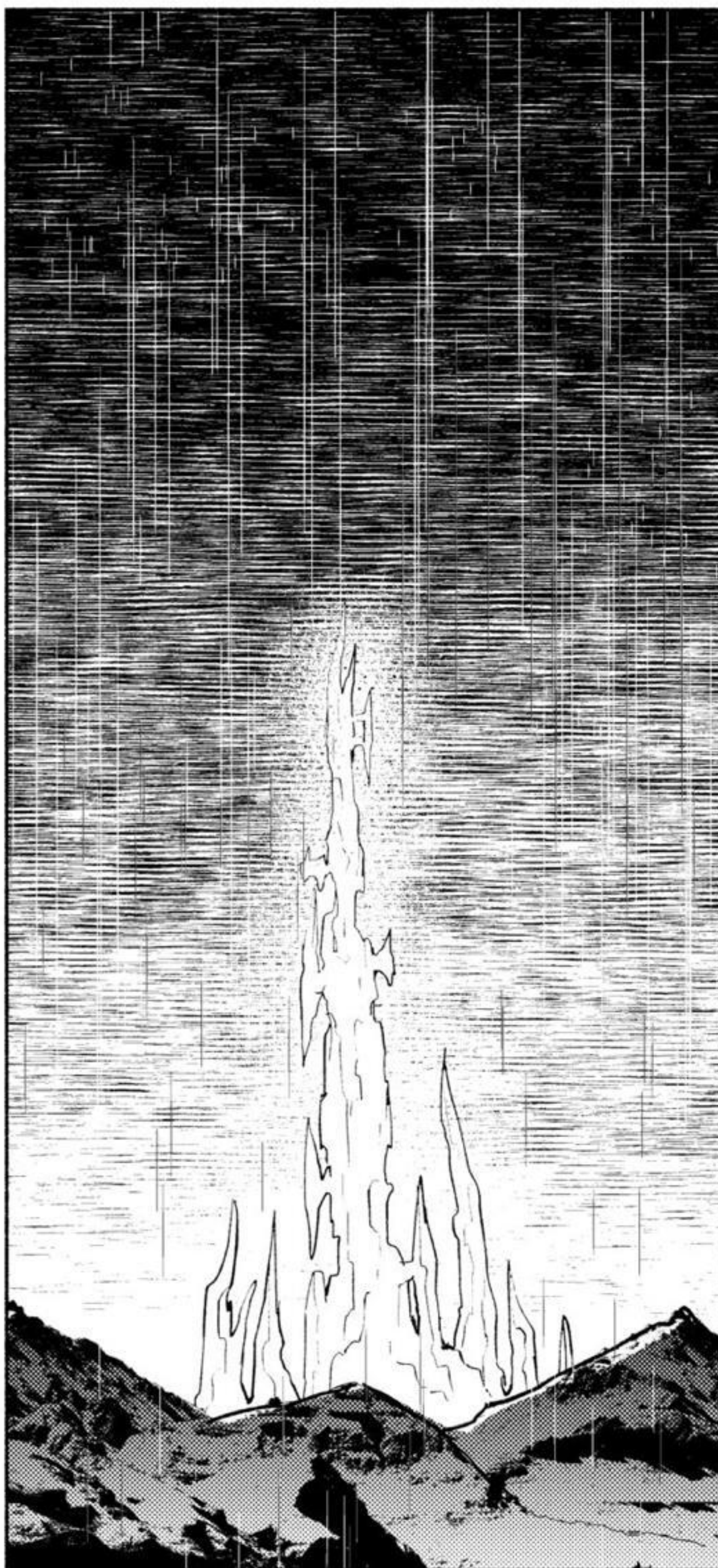
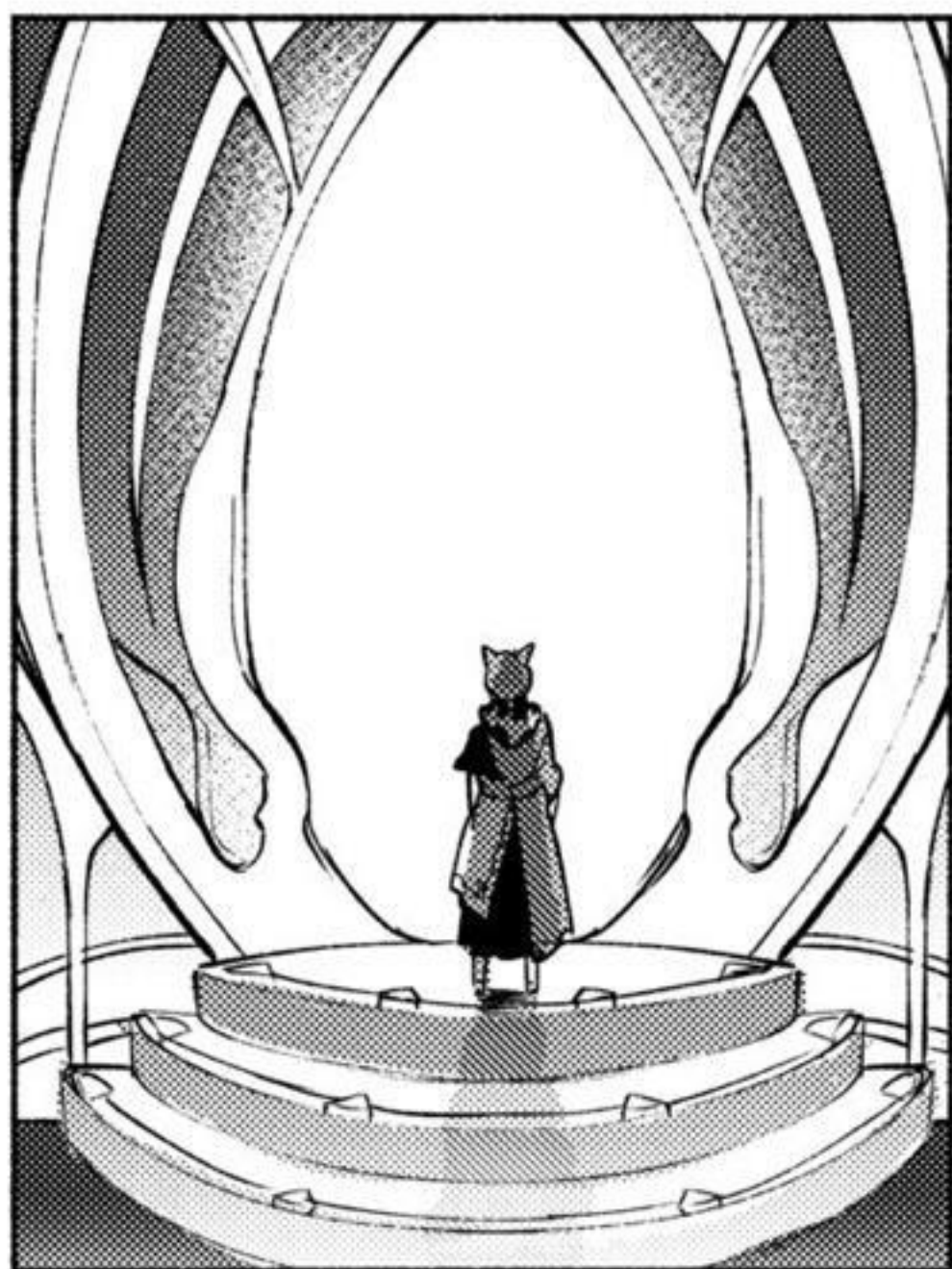
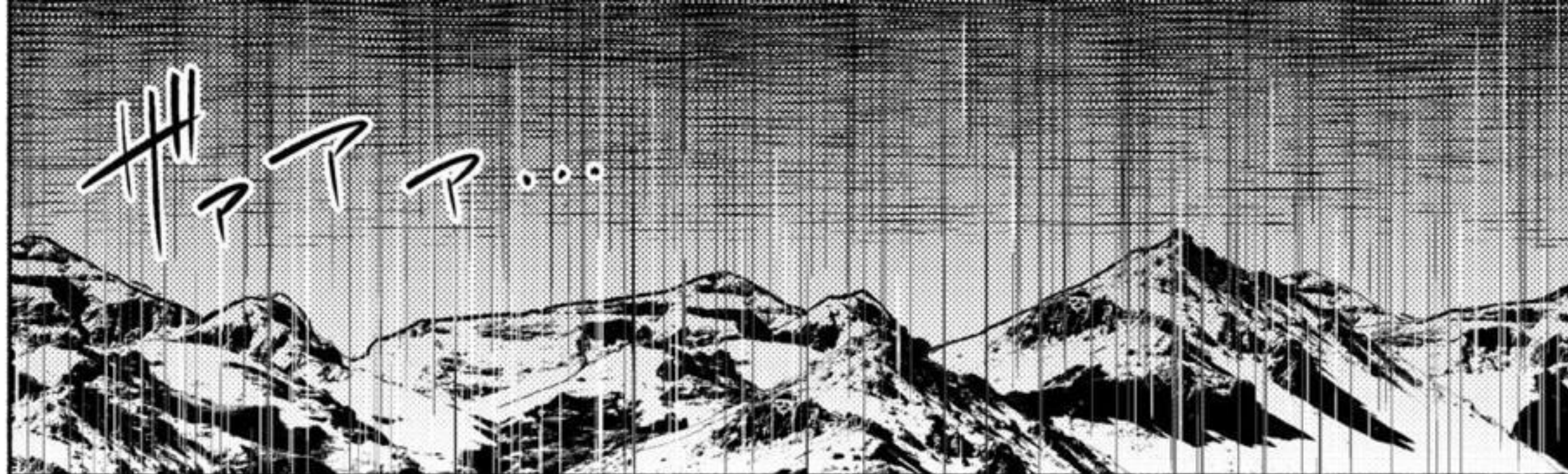
こうやって見てると
ただの
グ・ラハ・ティア
なんだよな

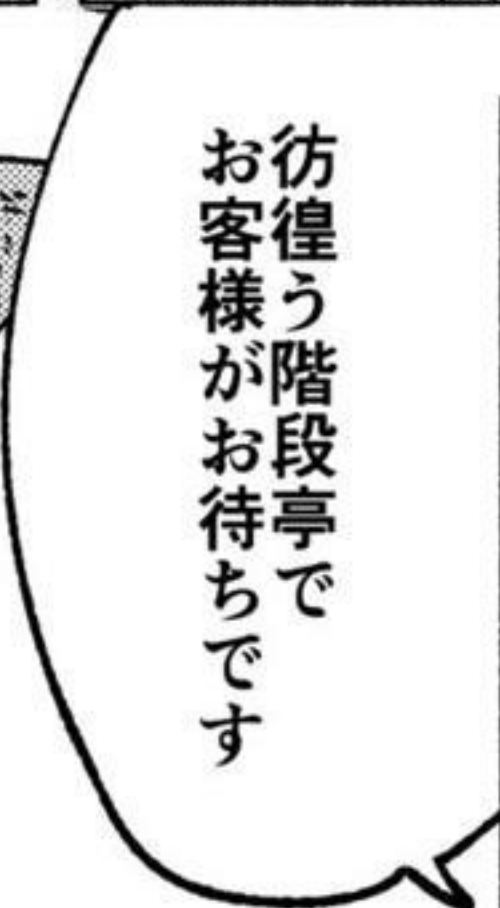
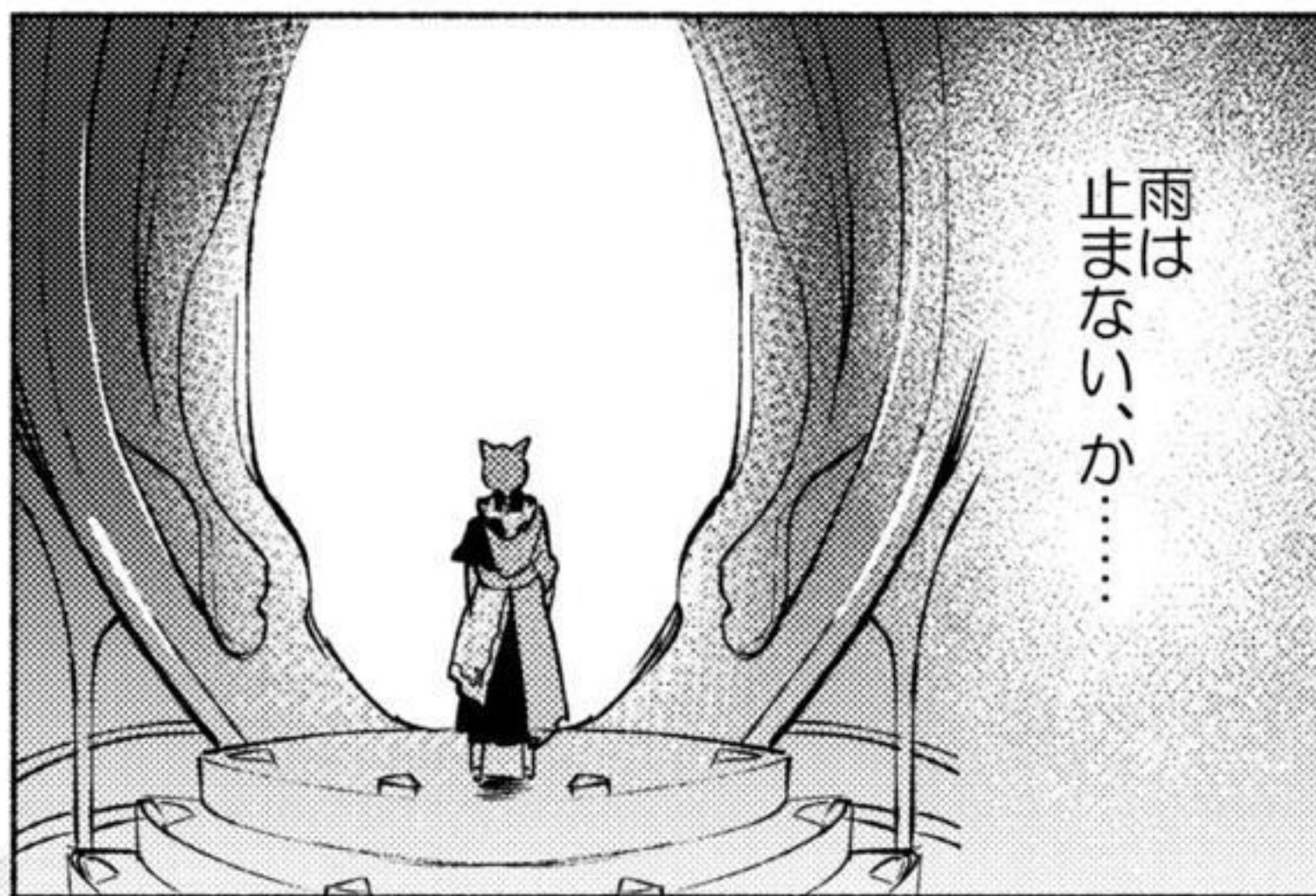
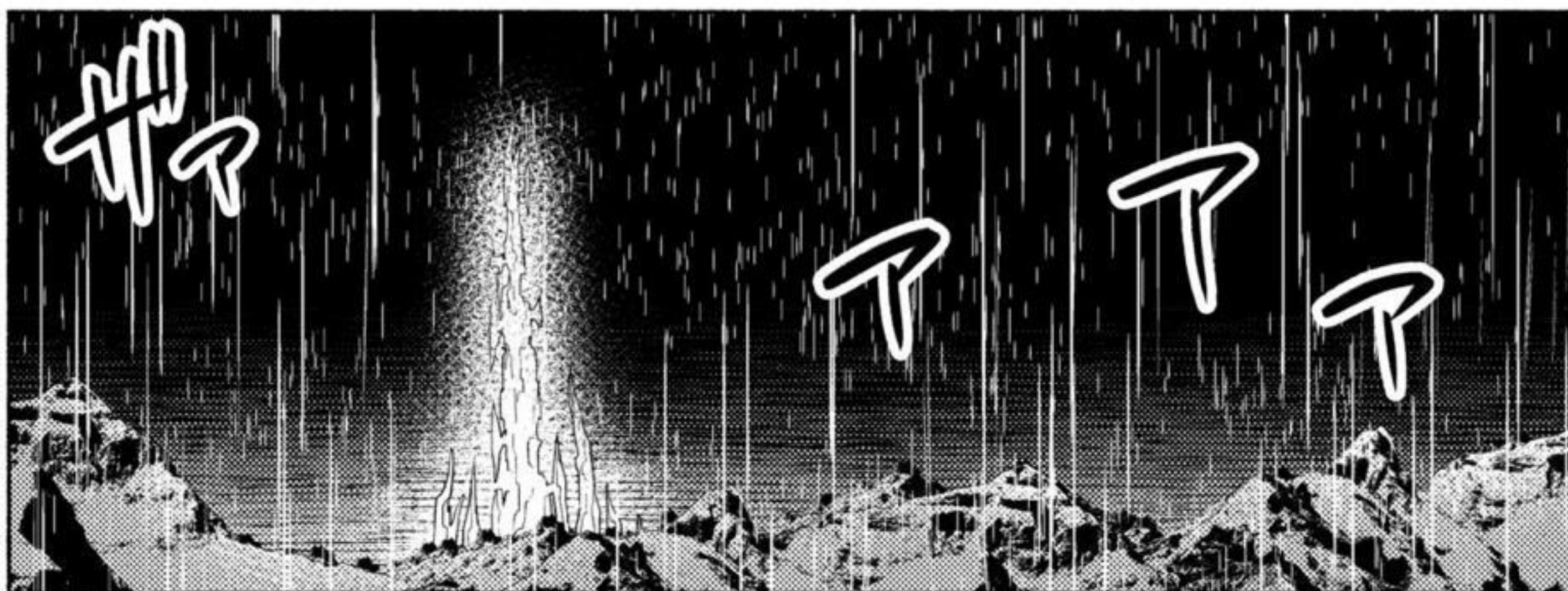


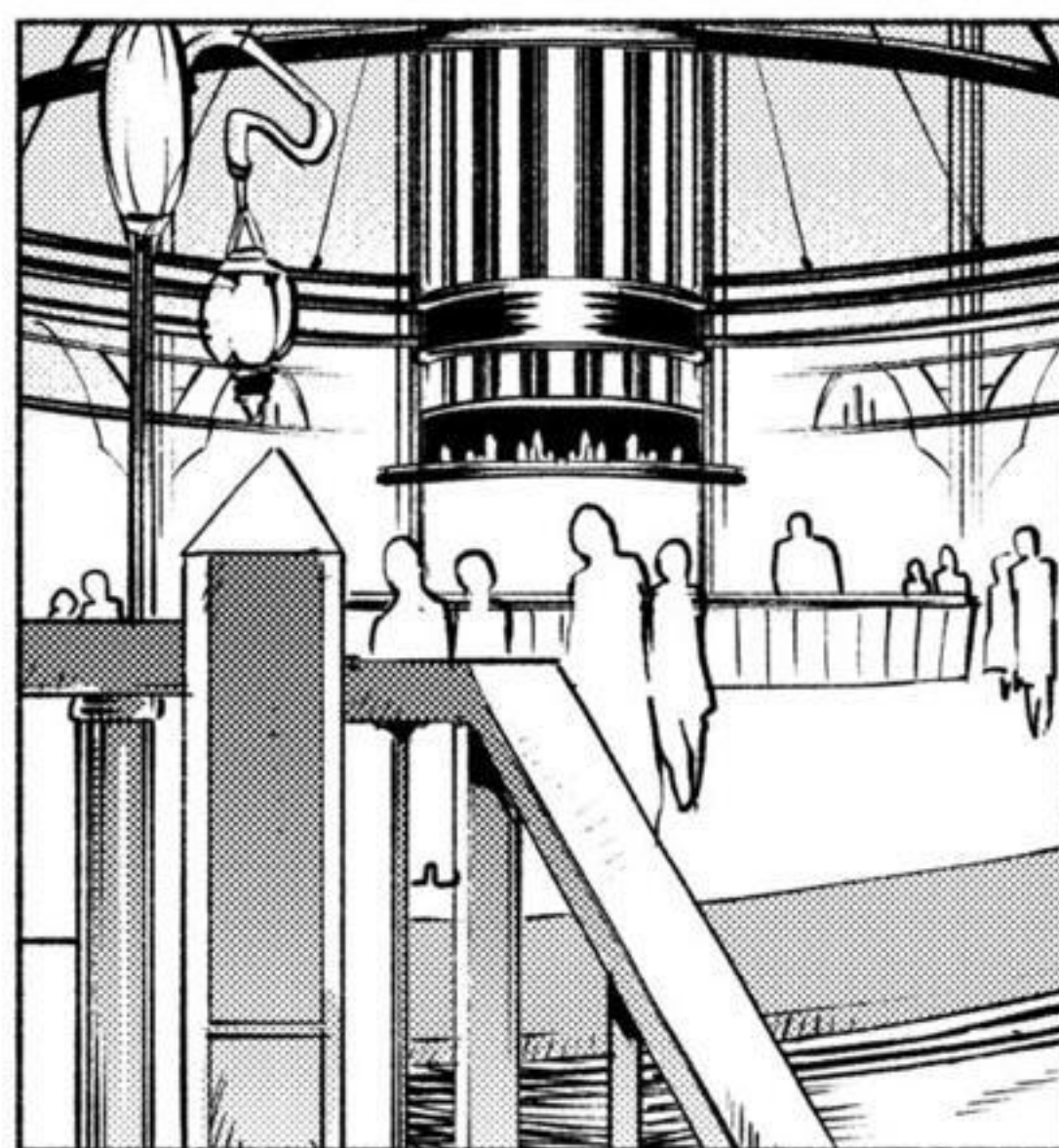
俺のためにも酒にも甘えず
人にも鍛えにも甘えず
自分も鍛えにも甘えず
間違った100年を
でかい100年を
くぐり抜けてきた
っていうんだ



愛おしく
思わない
わい
でし
うけ
が







客だなんて言うから
誰かと思えば！

客には
変わりないってば
お腹空いてる？

ああ、
まだ何も
食べてない

俺もはらぺこ

飲み物
何がいい？
酒？お茶？

じゃ
とりあえず
エールで

仕事が終わったら
彼に会える

ダークエールと
ブラウンエール
ーつずつ！

使命を抱えながらも、
憧れの英雄と
再会すること
夢見ていた
100年たったけど
あの日以来、
この日に頻繁に
彼に会って

目を見て

語り合って

食事を共に
出来るなんて



100年前には
考えたことなんて
なかった



今日までは
星空の下では
会って

でも今夜は
雨で阻まれると
思ってたのに
こうやって
違う形で会えた

ただ会えたことが
嬉しかった?

それもあると
思う



だけど



ここで待つ
彼を見た瞬間、
私の心は
跳ね上がった
しまったのだて





こないだ飲んだ
蒸留酒よりも
今日飲んでる
強い酒なのに
エールは

こないだよりも
ずっと
ドキドキしている



そんな
とんでもない！
私にとって
この仕事の後の時間は
本当に楽しみで……！

どうした？
なんかボーツと
してるけど
やっぱり
雨の日くらいは
独りの時間に
したほうが
よかったかな

そっかあ
よかつた

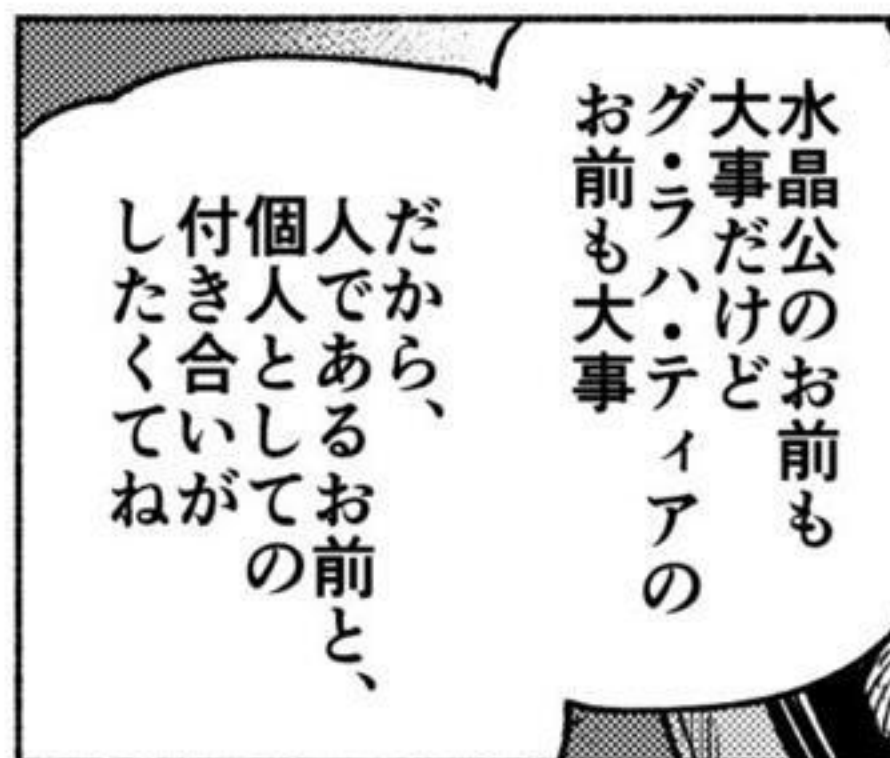
俺さ



俺の中では
まだまだ生意気な
グ・ラハ・ティア
なんだよね



水晶公が
事ある事に
人ならざるゝとか
私は老人でゝ
寂しいのが



水晶公のお前も
大事だけど
グ・ラハ・ティアの
お前も大事

だから、
人であるお前と、
個人としての
付き合いたくね



水晶公の
100年を
否定するわけ
じゃなくて、
まだ俺の感覚が
付いていない
ってだけ
なんだけどさ



ただ
見つけた
だけなのに



そんなわけでさ、
この時間を楽しまって
よかった

ほら、
食えよ...

……旅の中で
永い時間を働きすぎて
擦り切れちゃった奴とか
見てきたから
今の水晶公の働き方が
心配になっちゃってさ

また大変な時が
来るかもしれないけど
せめて今だけは
毎日が祝祭、
毎日がお宝とかでも
いいんじゃないかなって

この人の頭の中に
私が居て

ふふ、
受け売り
だけどね
コレ

ほら
お宝だっ

ああっ

いや、
素敵な言葉
だ

私も、この毎日が
続いてほしい

それを
実感するたびに
喜びが
胸の中で沸き立つ



仕事が終わって、
あなたに会うのが…
毎日本当に
楽しみなんだ…！

……よかった



毎日押しかけて、
うっとおしく
思われて
ないかなって
心配だったん
だよ

ははは

そんな
まさか！

ああ、心の中で
この人に
甘えたいという
欲が大きくなる
音がした

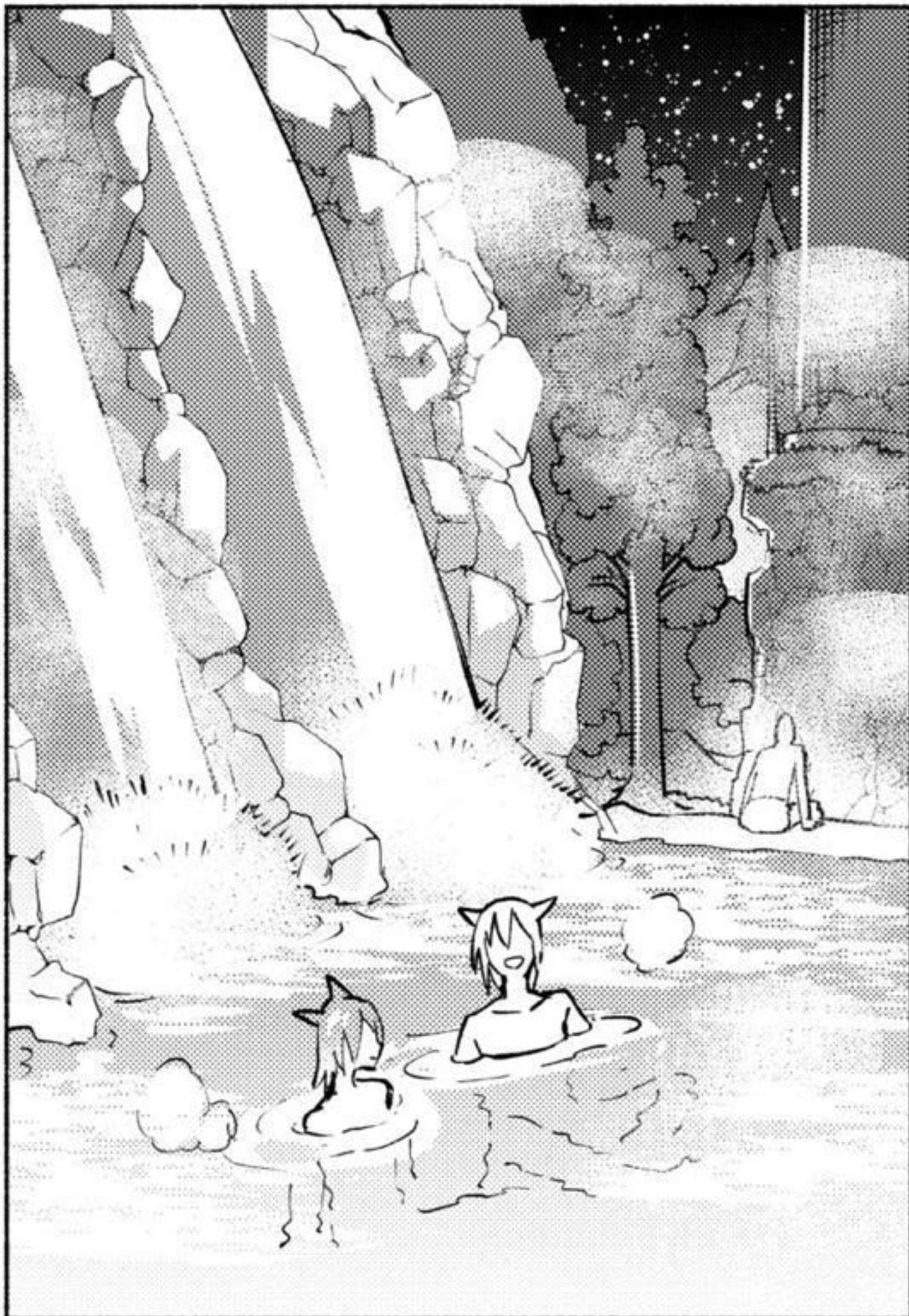






私が謙虚だなんて
とんでもない

今も、
心があなたを求めて
仕方ないんだ









わしゃ
わしゃ

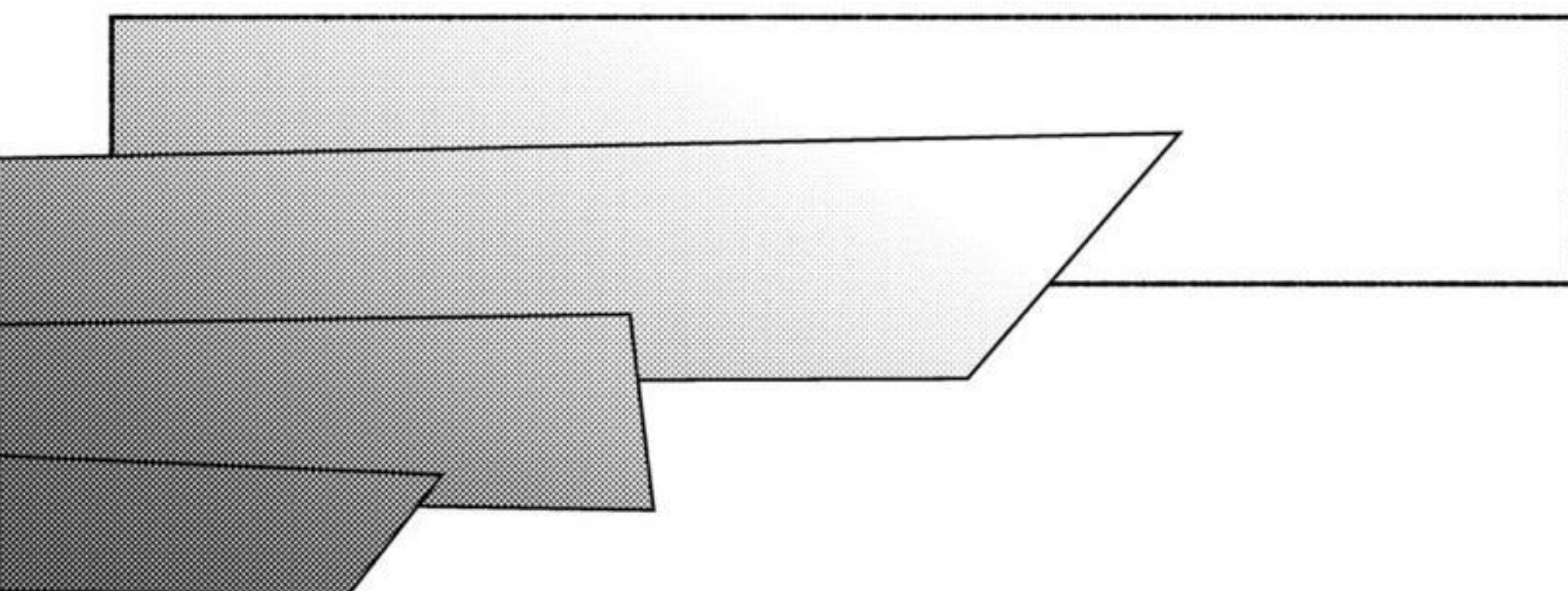
顔真っ赤じゃん！
やっぱ次からも
ブラウンエールが
いいよな？

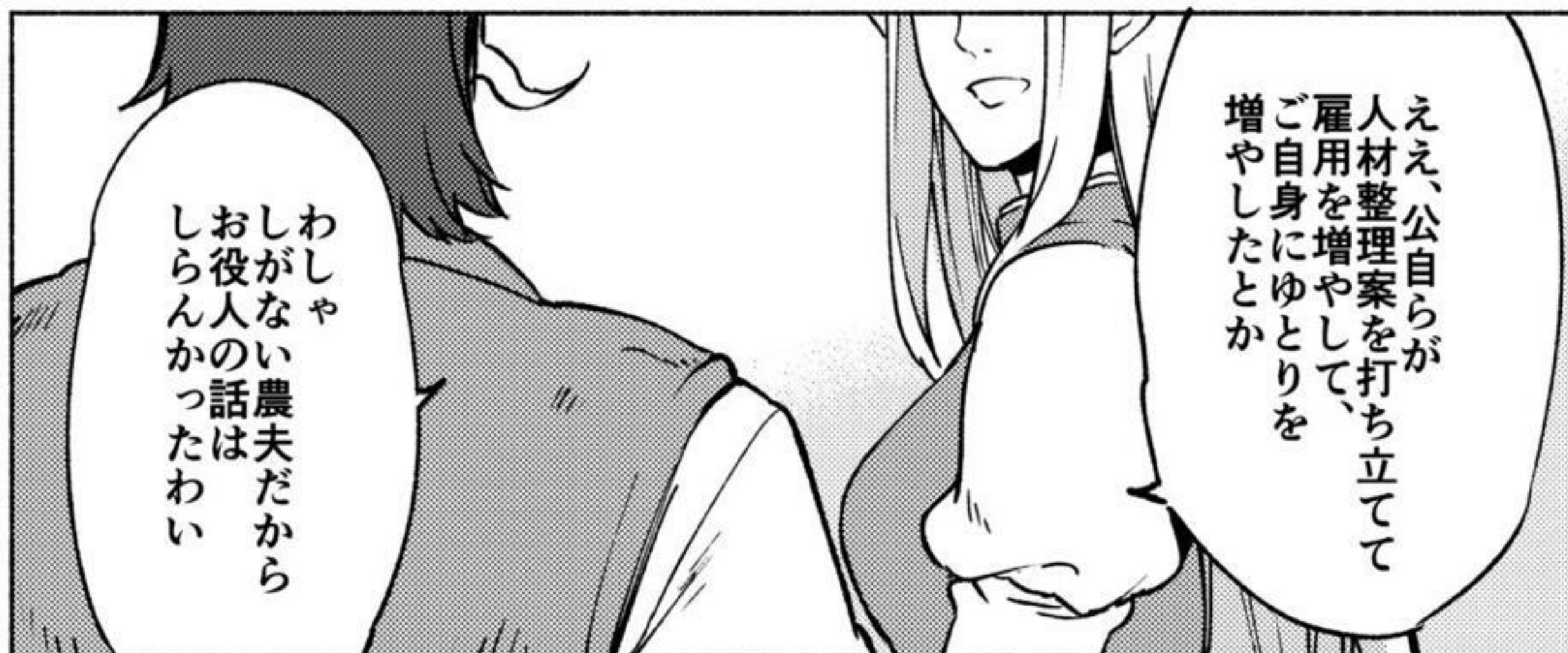
ち、ちがくて！
コレは
そういうんじゃない
なくて！

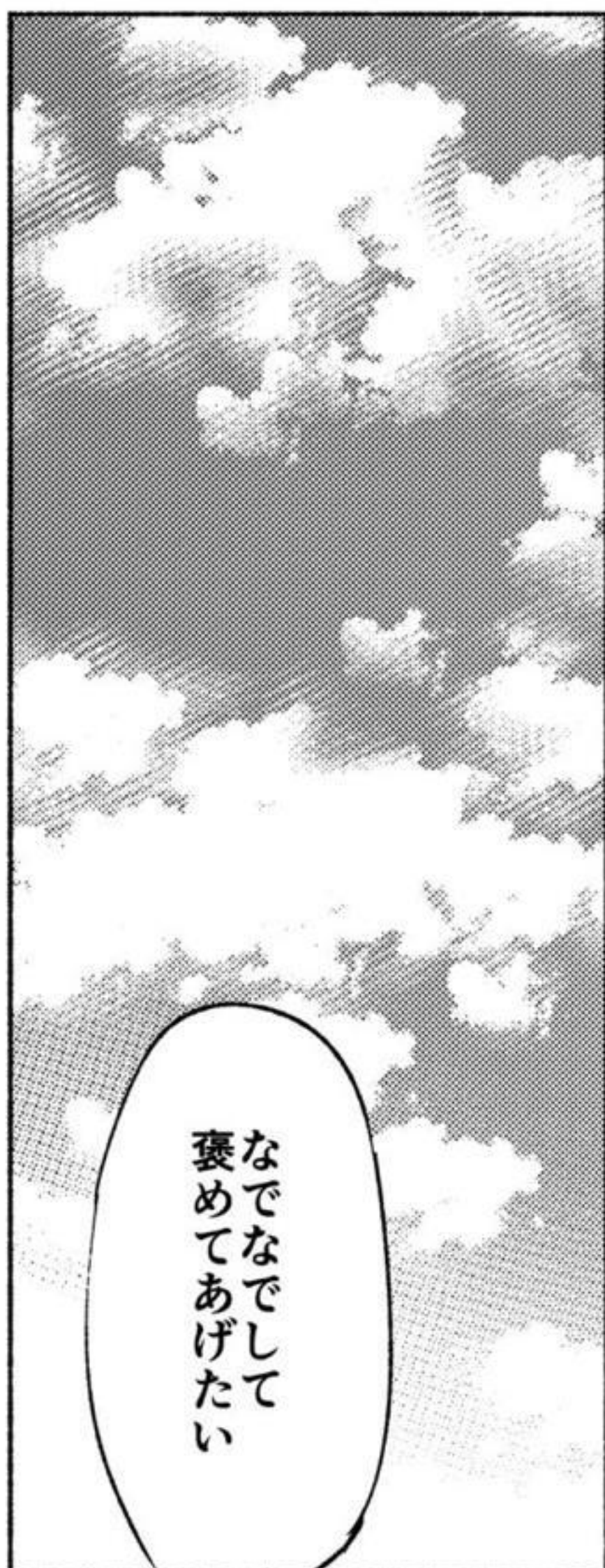


？

ひゅ









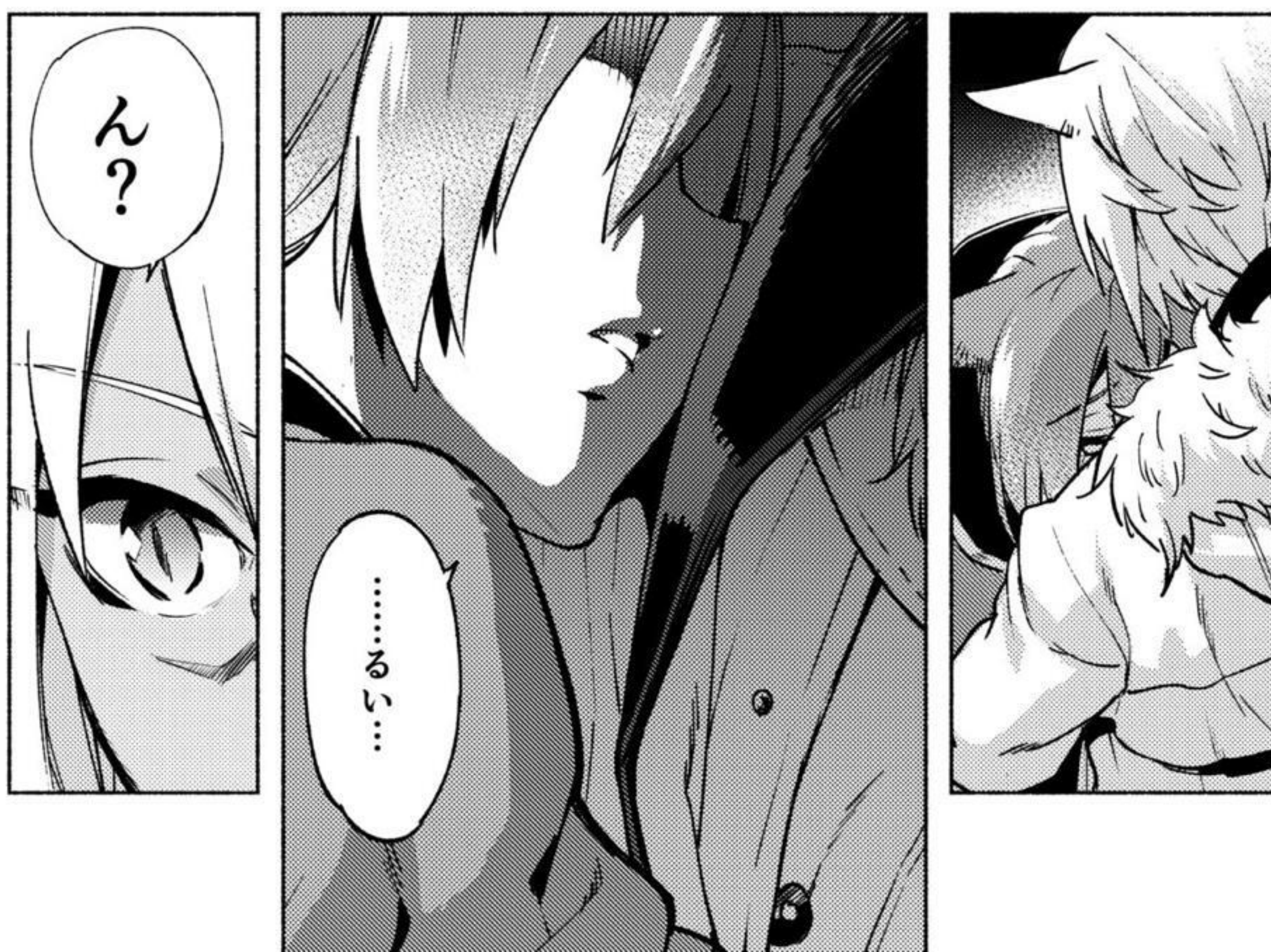
何事!?

よく頑張ってるから
褒めてあげたくて…

あっ
俺、思い立ったら
やっちゃおって
タイプなんだけど
こういうの嫌だった？

べ、別に……





あなたは
ずるい

こんなに……
私の心を
かき乱して……

え、なにになに
こういう
馴れ馴れしいの
嫌だった？

ぎゅ

ふふ

本のお話から
飛び出したような
あなたに、
私は憧れたさ

でも

あなたはどんどん、
「お話の英雄」から
等身大の
私の大事な人にな
っていく

あなたの話を
聞きたびに
私があなたの中
に居る実感が
私の中に湧い
て

あなたと自分の
境界線が
なくなっていく

それなのに、
それなのに……

さっきみたいなら
抱きしめられたら

かゝ かゝ……

あなたと離れたく
なくなってしまう

友人同士の
遊びに
私はなんて
浅ましい……

もっと早くに
言えば
よかったかな

好きだ、って

え……

そうでもしないと
ラハは自分を
責めるから

かあぁ

でもね

抱きしめたかったのは
本当
褒めたかったのも
本当
安らいでほしかったのも
本当

でも、俺
ビビっちゃってさ
こんな冗談めかした形で
抱きしめてごめん

英雄とか言われてても、
一個人としては
こんなもんなんだよな

自分ごまかしてさ
初恋の扱い方が
わからなくて
子供みたいで
かっこわるくてさ

幻滅しちゃった？

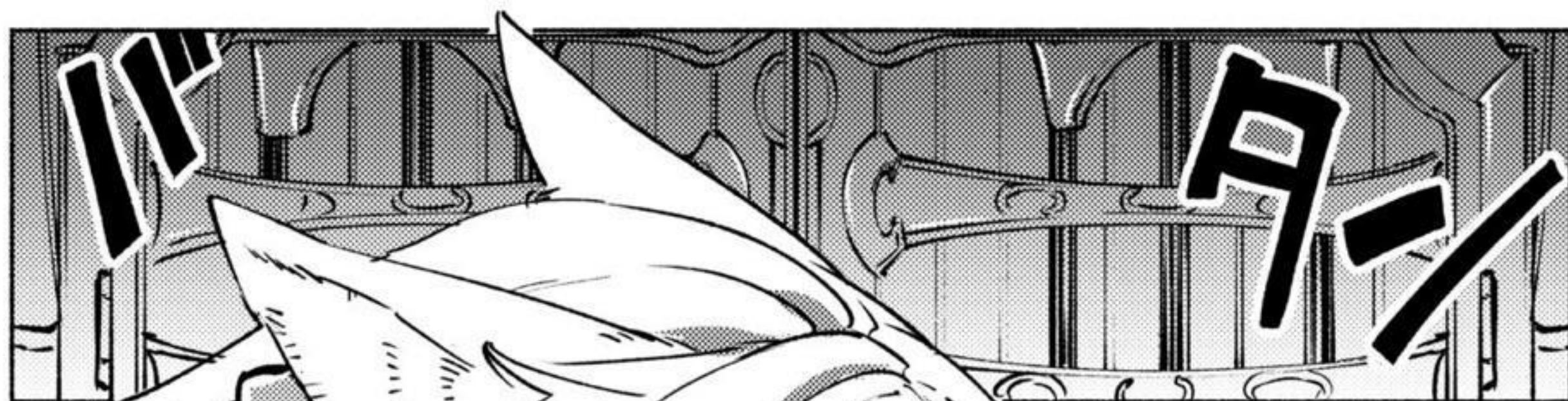


……そんなあなたは
本に書かれてなかった

もっと知りたい









はあ

あなただが部屋まで
我慢させたんじゃないか！

仕方ないだろうー！
空とぶ絨毯より
ベッドのほうが
絶対いいって！

ほらほら
サンダル脱いで
ほら

॥



ね、触って

はぁ

はぁ

ドキ

ラハのことが
好きすぎて
勃っちゃった……

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

普段から
扇情的な格好を
しているから

大きさは
なかくなく……
いわたけど……

ぎゃうっ

びく

もっと
ぎゅっと
握って

びく

あ

ぎゃうっ

あ

熱くて、硬くて
手からはみ出るほど
大きくて

ん





あんなを
助けたら
思っか誰か
どっかの誰か
恋愛なんか
してる場合
じゃないの...

かあ...

ばか...

始まりは
英雄と世界を
救うためといえ





わかってたけど
勃起すると
やっぱり
大きい〜!!

ビキビキッ

こ、こんなの
私の中に
ちゃんと入るの
だろうか!?

その……
ええと……
するのか……?

え、
やっぱ怖い?

じゃあ
俺に挿れるほうが
いい?

こんな老人が
言うのも
恥ずかしいけど

あ……いや
そうでは
なく!

知識としては!
知識としては!
知ってるが……

でも実際に
どうやって
やるのかは
勝手がわからなく……

だから……

たくさん……
可愛がつてほしい



きほだ
たぐい
ぶな
て



すっごいエッチな
顔になってきたし

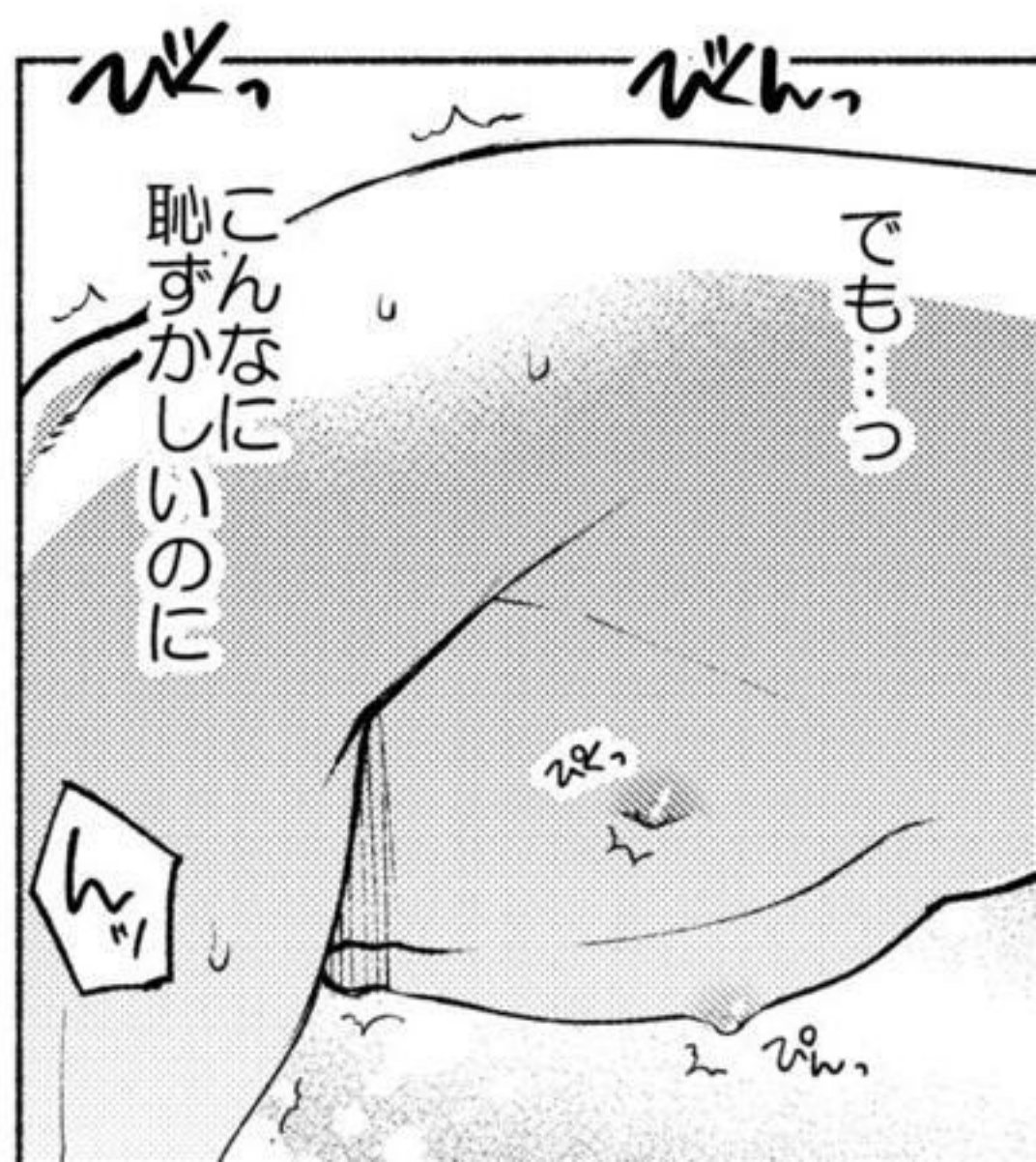
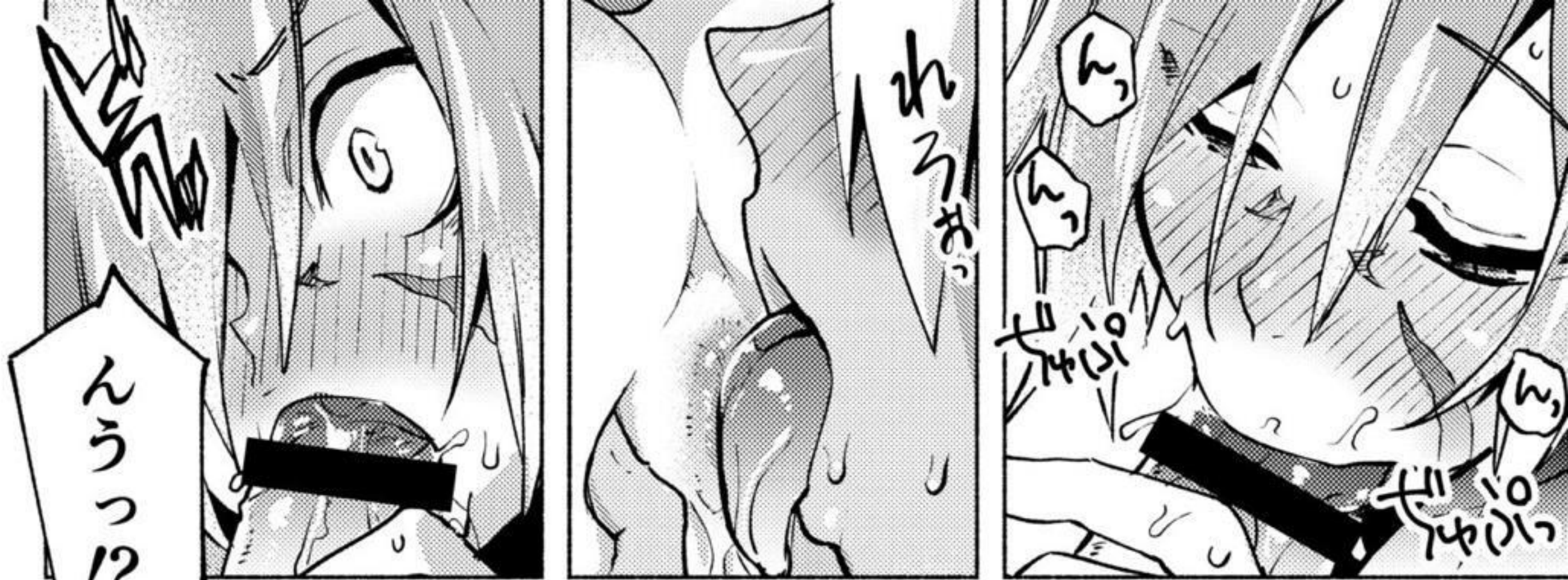
お口も上手に
なってきたね

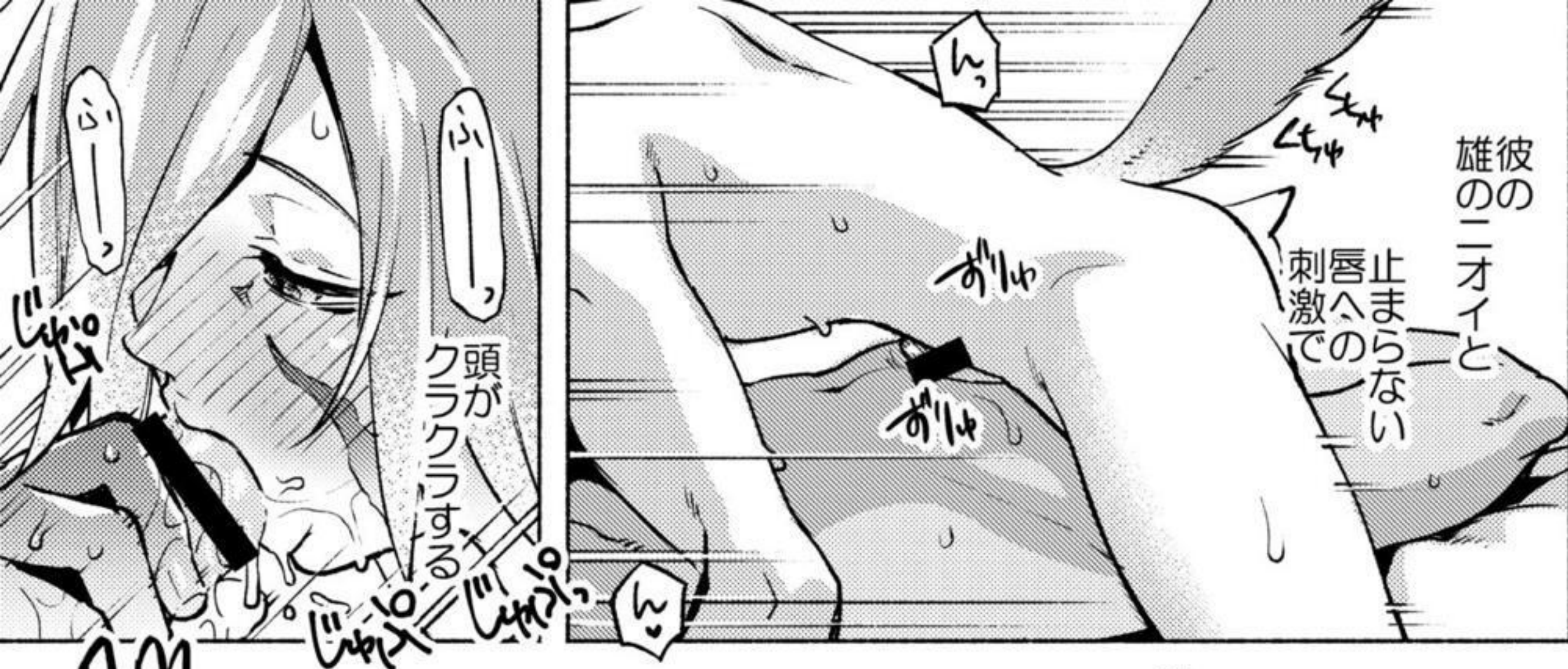
ラハの唇
ぼつりしてて
ずつと
エッチだなんて
思ってたよ

ずっとキス
してたかったし
俺のちんぽ
しゃぶってた
ほしかつたんだ

かあ

ぐんぐん





彼の雄の
二オイと

止まらない
唇への
刺激で

頭が
クラクラする



私の口の中で
硬く大きくなる
“彼”に
ただちやくちやに
さめたい



今は、
恥ずかしい
なんかよりも……

いい……っ
射精そう……



あ
あ……



はあ

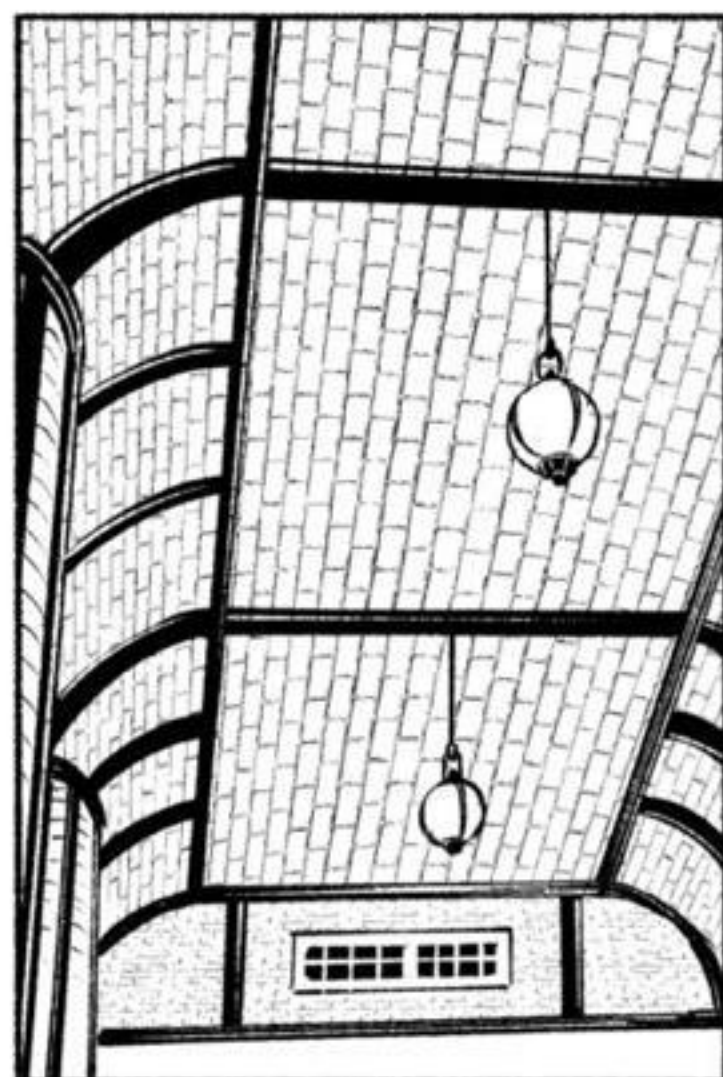
はあ

はあ……











そ、そんな



どんな顔して
明日から……!!

気にすんなって
俺もお前と
恋してたんだから
恥ずかしさは
頭割りだよ



あああああ

ほんとニブすぎでは?
本たぐさん読んでる
といっても
ジャンルが偏りすぎ

伝記ものもいいけど
恋物語も嗜もうぜ



なんなら俺が
恋の詩を唄おうか?





使命のための
「歯車」として
生きてきた水晶公が
「人」として
戻ってきたのではないかと
この時ようやく実感できた



あなた自身の
実体験なのか……と

……気になって……



あなたは……
この恋の詩を
どうやって……？

どうやって、
って？

誰かから
習ったのか……
それとも……

こんなかわいい
嫉妬をするなんて

さあね

むっ

でも、
ふたりで長く生きてたら
俺の詩はうハにとって

きつと
愛おしいものに
なるよ

だから、
もうあんな
危ない真似は
しないで



あなたの
ために
生きよう



マトーヤ様にはか
お見通しだったか

ふー

いやね、お互い
余暇を取るように
したんだ

そう

知ってる？
水晶公……
グ・ラハ・ティアの
特技

いいえ？

唄がとっても
上手くてさ
ふたりで歌いに
行ったりしてるんだ

どんな唄を？

いろいろ
たくさん



そして、
これから
も

ふたりで唄える詩を
増やしていくんだ



恋の詩、愛の唄。 / Fin.

ありがとう漆黒のヴィランズ。

もう同人誌出すことって無いかな〜とか思ってたんですが出ました5年ぶりの新刊。こんにちわすえみつちっかです。やりたいなと思ってたけどいまいじつくり来るカップリングが自分の中に降りてこず、新生のプレイスタートから数年モダモダしてたのですが

（グ・ラハは当時から好きだったのですが、当時は「ああこのままなのかなあ…」という諦めが正直ありました。私は古いネットプレイヤーなので、この運営をどこまで信じていいのかというのが当時はあったんですよ）ありがとう漆黒のヴィランズ。自機のヒカセンも可愛ければ、水晶公もグ・ラハも可愛い！私はオスツテ同士がかわいくじゃれていればそれでいいんです。

私は自機のオスツテヒカセンのキャラ付けについてですが、結構飄々とした外面のキャラにしました。ゲーム内ではどうしてもNPCの話をウンウンと聞くだけになりがちなので積極的に動かしたい。やりたいことをやってるうちに世界を救う、って随分と天才のソレだなと自分でツツコミいれながらも、英雄なんだからそれくらいやれていいよな、みたいなの。にぎやかで明るい人となりに見えるけど、本当は誰も今まで愛したことがないので、人の輪の中にいるのに寄り添う人はいずれも居なかった。自分と同じところに並び立てるような覚悟や力を持つ者でもなければ、心から愛を注ぐことが憚られる。なぜなら英雄としての暮らしは安全なものではないから。最初はただの自分勝手に独りで動いていたのに、積み重ねた結果が自分を高いところ

に押し上げてしまつて、誰かを愛する機会を失ったまま進み続けてしまった、というキャラクターです。英雄としては評価されても個人としては結構空虚なので、世俗の文化で自分を埋めている耳年増ですね。あーフレイ君に怒られそう。主に風俗通いなどを。

水晶公については、私自身の偏見ですが、結構気軽にグ・ラハが漏れる子なのかなという感じで描きました。でも漏れるのは英雄の前だけですね。もしかしたらクリスタリウムの民たちの前でもちよつとはあるかも。ユールモアなんかではそういうのは一切見せない感じで。親しい人たちの前では愛嬌があっても、そうじゃないところはきっちり締めててかっこいいですね。そう、かっこいいんですよ。あんまり英雄の言うことをノータイムでイエスしないで、ちゃんと自分がある感じでもいいかな〜って思っちゃうのはきつと、モードウナでの彼の印象が強いせいかもしれません。（でもめちゃくちゃ英雄に甘いと思う！どっちだよ！）かっこいいと思いつつも英雄と二人つきりだとすぐにパツ汚しちゃうような子でもいいです。かわいいですね。でもすごい魔法使いなんですよね…。ちなみにこの本のタイトルロゴはデザイナーさんに発注したんですが、作品・キャラの情報をお渡ししたときの公の説明は軽く怪文書になってしまいました。簡単に説明するだけでも怪文書になる属性盛りまくり男なのでかわいとかっこいいが行き来するのは仕方のないことなのでしょ。

さて漫画の内容についてなんですが、長い！でも馴れ初め本出さないとか…みたいな気持ちも強かったし、とりあえずセックスさせないと嘘でしょとか、デートいっぱいさせたいとか、本格的に私による私のためのデトックス同人誌となってしまいました。作業始めたのが2020年の1月からなので、これ以上尺を長く取るわけにも行かない（仕事の原稿もあるし、流石に100ページ越えになると本が出ない！分冊は嫌だ！）ので、かなり落ち着きのない本になってしまいました。反省しかない。楽しんでもらえるものになってるのかめちゃくちゃ不安ですがここまで読んでくださってありがとうございます（お礼の挨拶が遅い！）。

でも一冊仕上げることによって、自分自身が自キャラと公についてこう思ってたんだということが客観視出来てよかったです。それに本を作るまでは、自分なんか描かなくてもいいかな…みたいな弱気なところがあつたので、同人誌でまとめた量描けてよかったです。あと、3D環境をぐるぐる回せるってロケハンめっちゃ楽しかったと思います！装備描くのは大変なんですけど、作画用のMacの横にゲーミングモニタを置いてるので、画面見ながらスケッチできるのめっちゃめっちゃ楽しかったです！クリスタリウムの街はクリスタルタワー内部をモチーフとした意匠が多いとか、そういうことに気づけるのもまた、自分で描いたことで得られることでもあるな。今後もこんな感じで落書き漫画とかやっていきたいな。

具体的な漫画の内容についてのツツコミを箇条書きで。もう締め切り過ぎてるのに紙面が埋まらないのだ。

【闇色のシロップ】ゆるせねえ〜そんなへロへロになりながら仕事してるなんてゆるせねえ〜って思ったクエストです。ライナも止めなよ！って思うけど、子供たちはそんなわからんかなあ〜仕方ないな〜じゃあ英雄たる俺がちよっと止めたる！みたいな、この話のきっかけになったクエストです。自分自身が自営業だからこそ、いつまで自分は働くのかということを考えたことがあるので、それが永遠に続きかねないことを心底心配してしまいました。心配した末に同人誌が出た。

【深慮の間？】深慮の間以外にも星見の間にドアがあったので勝手に捏造しました。深慮の間が本積みまくりで汚かったので、捏造のこの部屋も机の上汚くしました。私はカップ麺すりながら仕事してるような水晶公が好きです。

【崖つぶち蒸留酒】蒸留酒＝ウイスキーですね。後に出てくるエールビール的一种より度数が高い設定です。ブラウンエール、ダークエールは現実存在するものの度数を参照しました。

【レイクランドの雨】多い。ロケハンの敵。

【彷徨う階段亭】わかりづらいのですが、作中で使われている席はロールクエストでルー・リークがいつも予約してる席だったみたいで、ロケハン中は常に誰かのアチーブがログを埋め尽くしていました。とんべり結構にぎやかなので…。

【英雄と水晶公のちんちんのサイズ】もちろん英雄のほうが大きいんですが、公も別に小さいわけではないというか、体格にしてみたら普通に立派なくらいが個人的には好みです。CV内田雄馬なのだから声の大きいピッチ受けなのだろう？とか思いながら描いてます。

【324年以上童貞処女】わかりません。でも私は水晶公…真なる名は…グ・ラハ・ティア（けんぬの声で読んで）は、興味あることに人生捧げすぎて興味が人生になるタイプのオタクだと思うので童貞処女のままだ24歳以上になっても別にいいかなくらいに思ってます。こじれまくった童貞処女はタガが外れたらブツ壊れて面白いのでそれもまたうまみですね。

【アラグの潤滑油】ありがとう退廃的な後期アラグ。シルクス・ツイニングの1グループ目抜けた先で一生懸命仕事してるドローン？クレーン？が頑張ってるこのアラグの潤滑油を仕分けして取ってきてくれたにちがいないと思いついて描いたりエキルレに当たったりしていました。※一から十まで捏造です。

【切羽詰まった水晶公のキスが下手】発情して慌てすぎて相手の口とはちよっとずれたところにキスしてしまいうくらい愛嬌あってもいいと思うし、ずっと下手でもいいものである。火力はあとからついてきますので、ギミックおちついてこなしていきましょう。私は好きすぎるあまりに歯がぶつかったりする下手くそなキスが好きです。

【もうこんな時間】ペンダント居住区あのスイートルーム、時計無いんですよシンジラレナイ！

【あなたのために生きよう】ほんと生きて。パッチ5.2直前で同人誌作ってます。

【オカワリ亭】パッチ5.1終了の段階だとヤ・シユトラがオカワリ亭にコーヒークッキー買いに来ているので。キャラメルはおそらくヒット商品になったでしょう。（漆黒初期レビュー）

【ノアのリュート】FF3の、長い眠りについていたウネを起こすためのアイテム。ウネは起床時にウネの体操（ラジオ体操のアレンジみたいな曲が流れる）をしていたけど、グ・ラハも体操したのだろうか。そもそもノアのリュートで起きたのだろうか。ゲーム内ではノアのリュートはミーン工房のクエストで下賜されているのを知ることができるけど、英雄ならこっそりレプリカも作れるでしょうきっと。

ちなみにリュートは6弦の楽器ですが、FF3の攻略本のイラストだと5弦になっていて、FF14では6弦に修正されて、リュートらしいデザインに刷新されていました。

とりあえずこんな感じで。またなにかありましたら感想等いただけるととても嬉しいです。次があるかどうかはわからないけど、気軽に二人を描いて行けたらいいなあ。おねがいしますよ公式シナリオ…。

読んでくださった方、同人に再び誘ってくれた友人知人と、昨年末急逝した同人活動再開を応援してくれた、故・担当編集氏に感謝を。

2020年恵風 すえみつづか



恋の詩、愛の唄。

FINAL FANTASY XIV unofficial FAN BOOK

2020年2月16日発行 通巻51号 発行:dicca 発行者:すえみつちっか
印刷: 日光企画 東京都北区浮間5-16-3



<http://dicca.org>

<http://pixiv.me/dicca>
twitter: @dicca

